

Euglena Group

Logmi IR LIVE

個人投資家様向けIRセミナー

株式会社ユーグレナ
東証プライム市場（証券コード：2931）

2026.06.20

【免責事項】本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。

会社概要

ユーグレナ・グループの事業

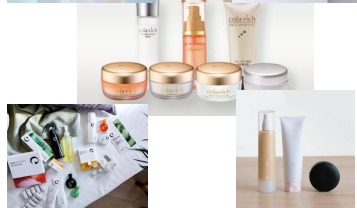
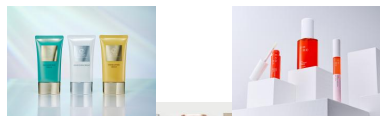
「人と地球を健康にする」のパーパスのもと、微細藻類を起点に、ヘルスケア、バイオ燃料、アグリ等の領域で事業を展開

ヘルスケア事業

健康食品



化粧品



ユーグレナ

Q'SAI

yaeyama epauler

mej



The Strategic FAB Company
SATICINE MEDICAL

バイオ燃料事業



ユーグレナ PETRONAS enilive



その他事業

アグリ領域（肥料・飼料）



遺伝子解析



Genequest

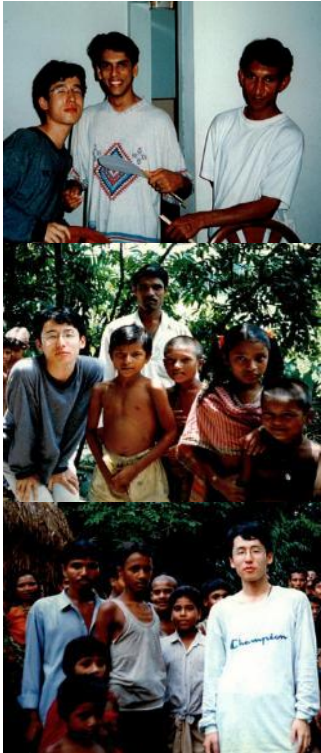
ソーシャルビジネス



Grameen euglena

微細藻類ユーグレナ - 創業の原点と屋外大規模培養の成功

創業の原点



社長の出雲が
バングラデシュで
栄養失調問題の
解決を決意
(1998年)

ユーグレナ

微細藻類ユーグレナ



栄養豊富な食品を探し求め、微細藻類ユーグレナと出会う。
当時、まだ誰もユーグレナの大量培養に成功していなかった。

創業と挑戦



東大農学部発
ベンチャーとして創業



屋外大規模培養に
世界で初めて成功
(2005年)

微細藻類ユーグレナ - 生物としての特徴とポテンシャル



動物と植物の
 両方の栄養素を
 含有する食品素材

1 59種類の栄養素

2 マルチ機能性

希少成分
 パラミロン
 (特異的な
 βグルカン)



撮影：青山学院大学 福岡伸一教授

睡眠の質、疲労感、
 ストレス、免疫機能
 に関する機能性表示

ユーグレナ[∞]

バイオマスの5F

重量単価

Food
 (食料)



食品
 原料



健康
 食品

Fine Chemical
 (高機能原料)



パラミロン



化粧品原料

Feed
 (飼料)



畜産



養殖

Fertilizer
 (肥料)



有機肥料



有機培養土

Fuel
 (燃料)



バイオジェット燃料
 バイオディーゼル燃料

3 多段階活用

生産量↑×生産コスト↓
 で事業を拡大

ユーグレナ社の歩み - 売上高推移

微細藻類ユーグレナを起点にヘルスケア事業で
収益基盤を確立

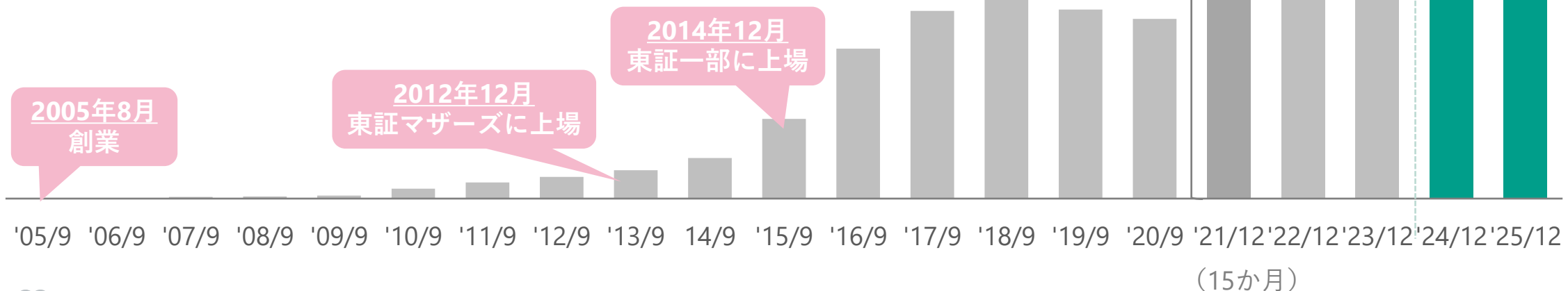
オーガニック成長と戦略的なM&Aにより、
大幅な事業成長を達成

2024年1月~
新Co-CEO体制発足

'25実績
504億円

Q'SAI
('21/6連結化)

1Q-4Q
(12ヶ月)

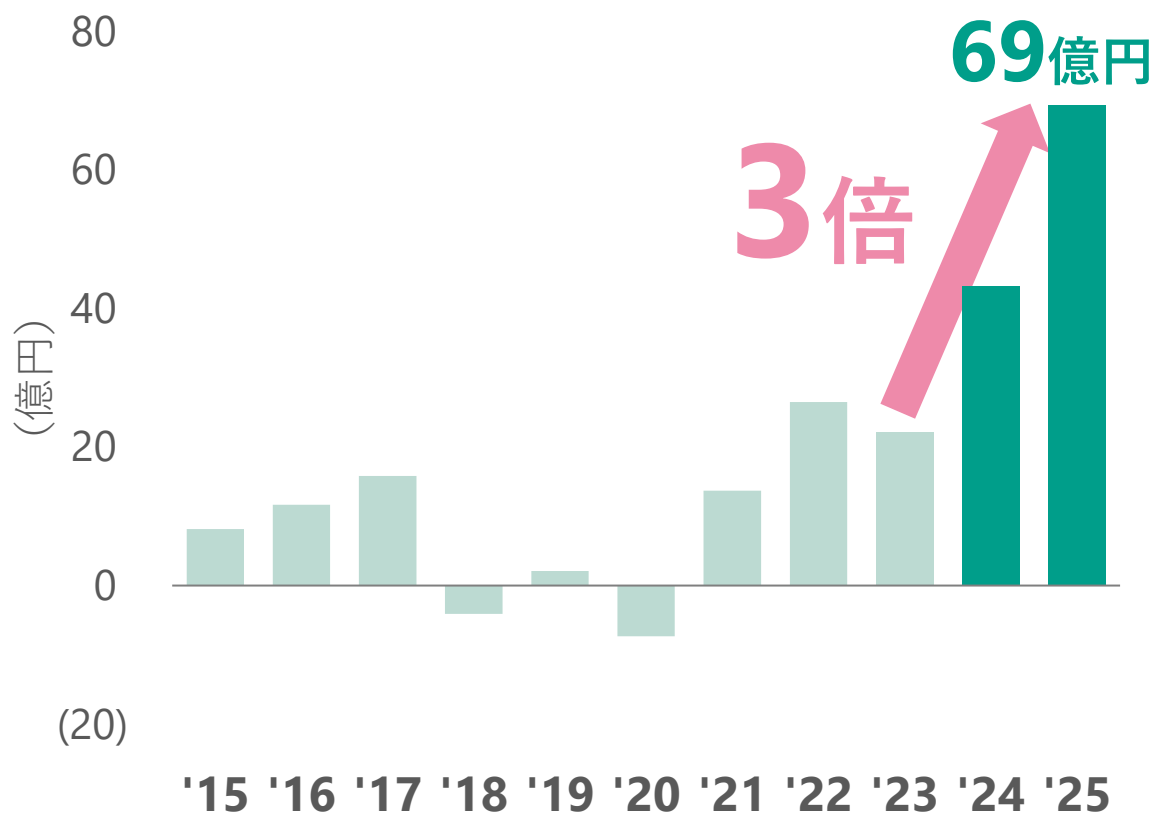


ユーグレナ社の歩み - 黒字体質への転換

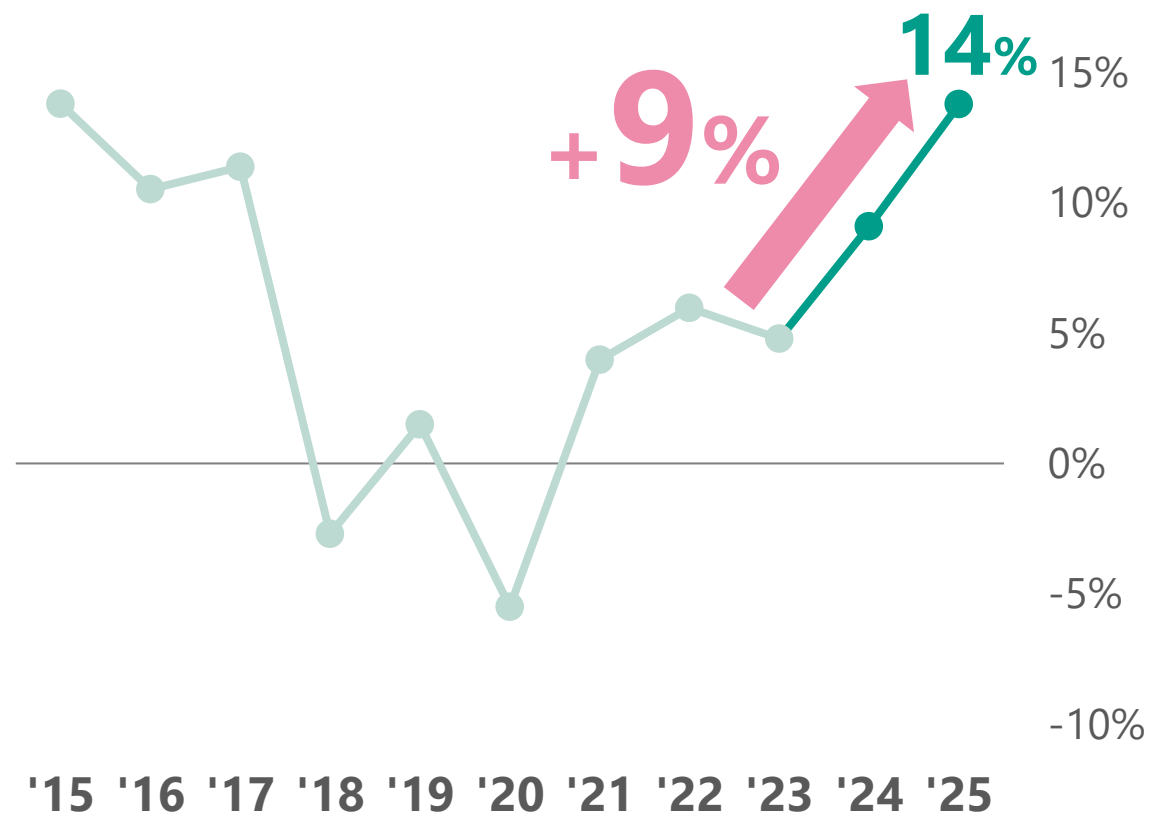
過去2年で現金創出力は3倍増、売上増以上に収益性改善が寄与

選択と集中、値上げ、変動費率低減、固定費抑制など、様々な取組みをグループ横断で断行

現金創出力（調整後EBITDA）



収益性（調整後EBITDAマージン）

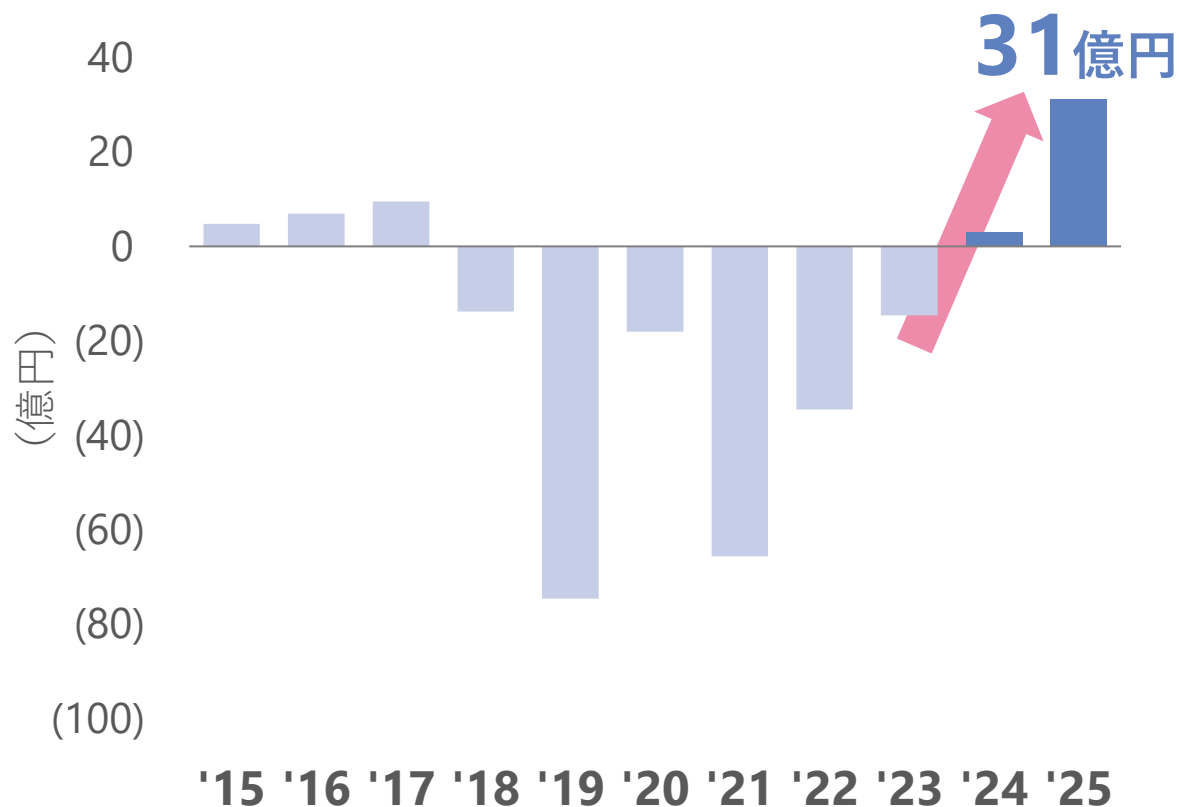


ユーグレナ社の歩み - 黒字体質への転換

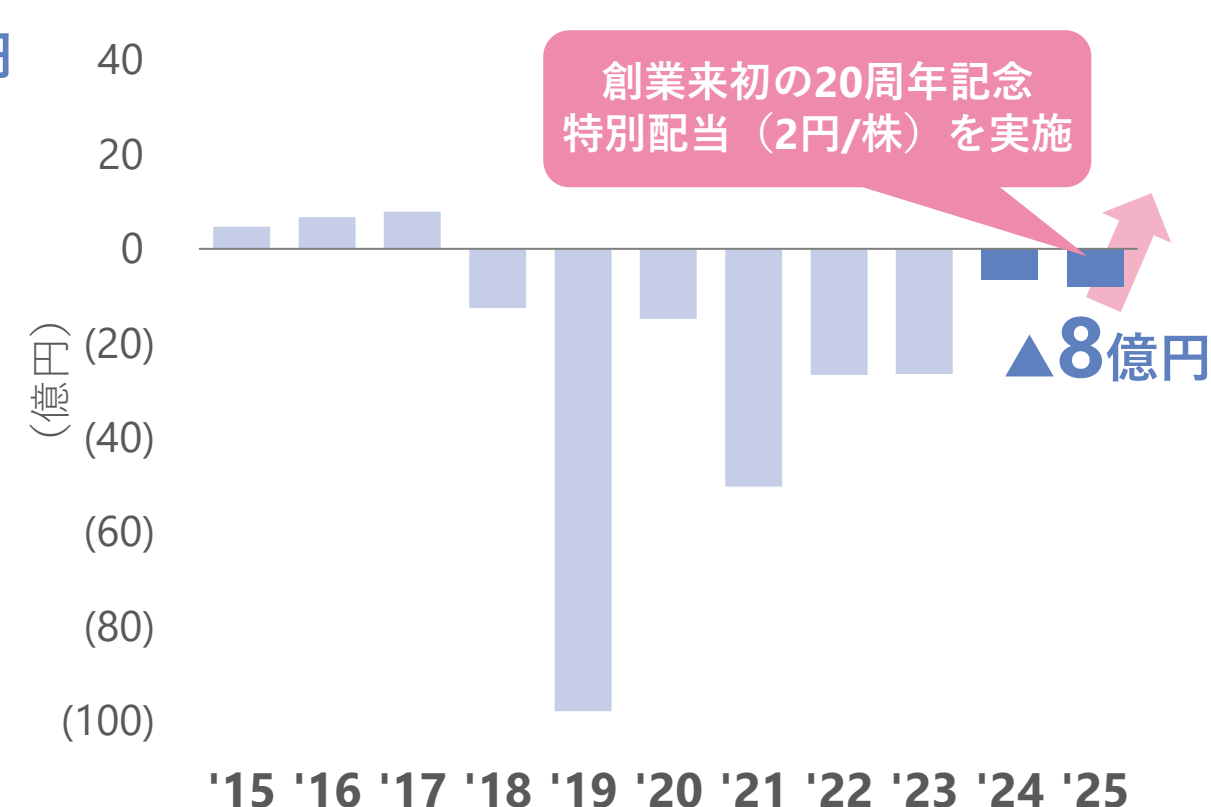
24年度に7期ぶり営業黒字化を達成、25年度は過去最高益を更新

25年度に創業来初の特別記念配当を実施、26年度は当期純利益の黒字化を目指す

営業利益



当期純利益



目指す姿 - 微細藻類ユーグレナを軸に成長を追求

過去10年で拡充してきた事業・収益基盤を活かして、次の10年は微細藻類ユーグレナを起点に新たな成長ドライバーの創出を目指す

~2015年



ヘルスケア

微細藻類
ユーグレナ

バイオ燃料

パーパス
「人と地球を
健康にする」

ユーグレナ

~2025年

20th
Anniversary
Euglena Co., Ltd.

商業化準備
が完了

バイオ
燃料

微細藻類
ユーグレナ

ヘルスケア

安定収益
の基盤

アグリ

第3の柱
として育成

~2035年

商業プラント
稼働で収益貢献

バイオ
燃料

微細藻類
ユーグレナ

ヘルスケア

深化

安定成長

探索

アグリ

アグリ等、次の
収益の柱を創出

目指す姿 - 両利きの経営

既存事業の強化と微細藻類を起点とした新領域の成長により、2030年度目標の達成と、2030年以降の収益成長を目指す

既存領域の「深化」

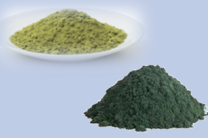
既存のアセットと事業基盤を強化し、
強固で安定的な収益基盤を構築

ヘルスケア事業 (国内)

BtoC
(一般顧客
向け)



BtoB
(企業顧客
向け)



バイオ燃料事業



新規領域の「探索」

微細藻類を起点とした4つの領域で、
新たな価値と市場を創出、成長機会を開拓

1 **ヘルスケア事業** 海外展開



3 **アグリ事業**



コンパニオン
アニマル領域

2 **ヘルスケア事業** 疾患領域 (CKD)



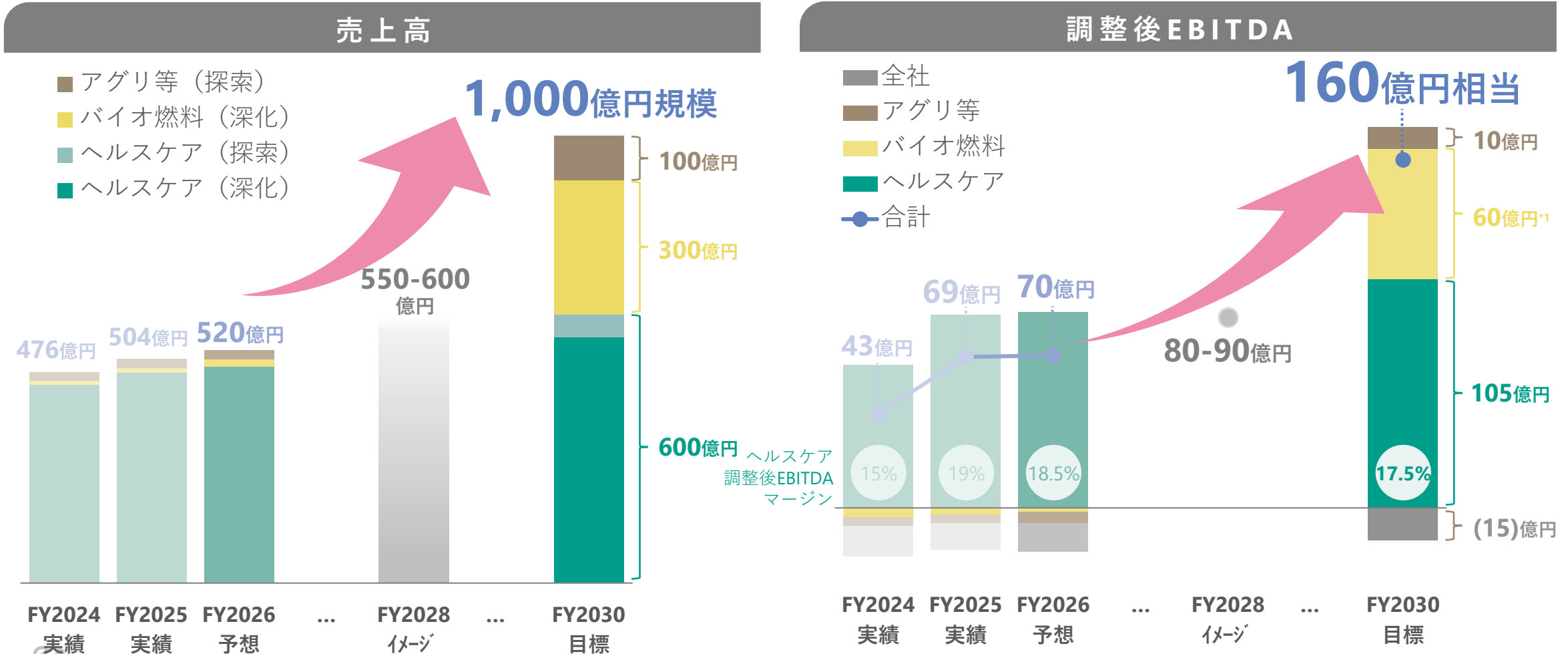
4 **バイオ燃料事業** 藻油開発



バイオマスの5Fと両利きの経営を
本格始動

目指す姿 - 2030年度目標

ヘルスケア事業の安定成長とバイオ燃料商業プラントの本格稼働開始等により、2030年度は飛躍的な収益成長を実現を目指す



*1: 合併会社からの配当による税引前利益 (資金調達費用を除く) ベース

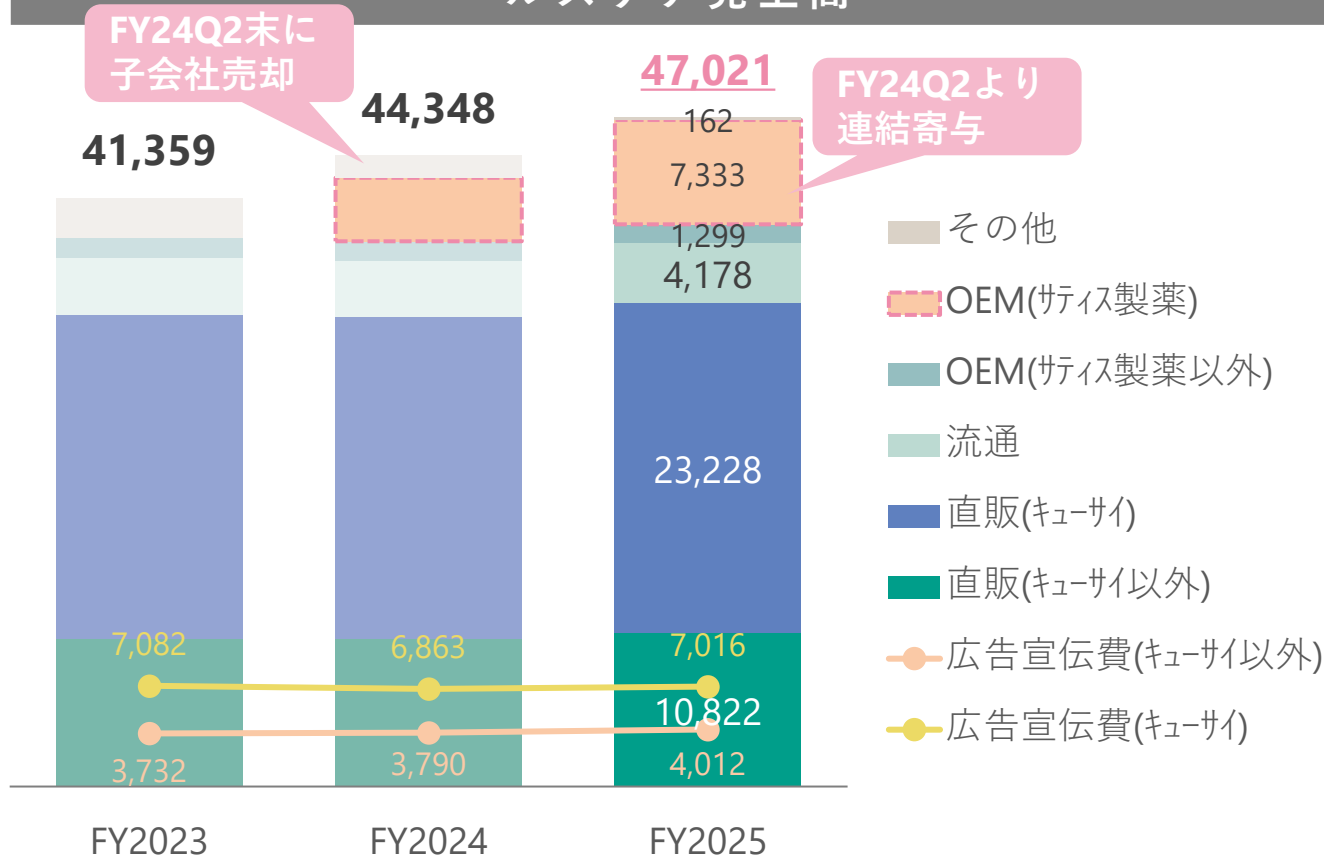
事業内容

ヘルスケア - 売上高、調整後EBITDA

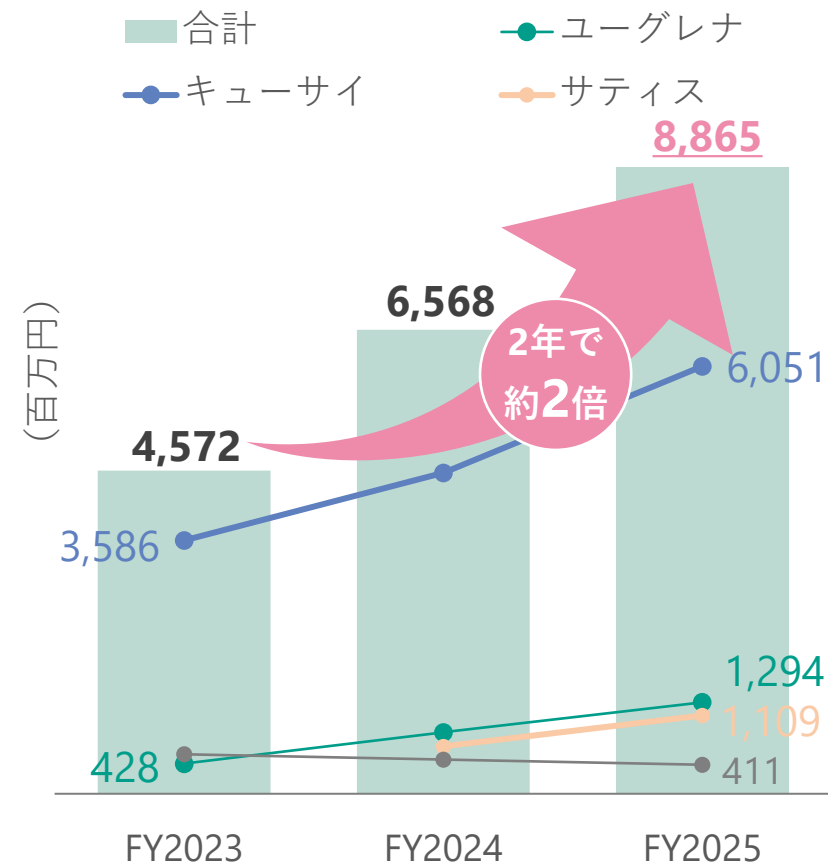
直販成長とM&A影響で売上高が増加

加えて、収益性改善により調整後EBITDAも大幅に拡大

ヘルスケア売上高*1



ヘルスケア調整後EBITDA*2

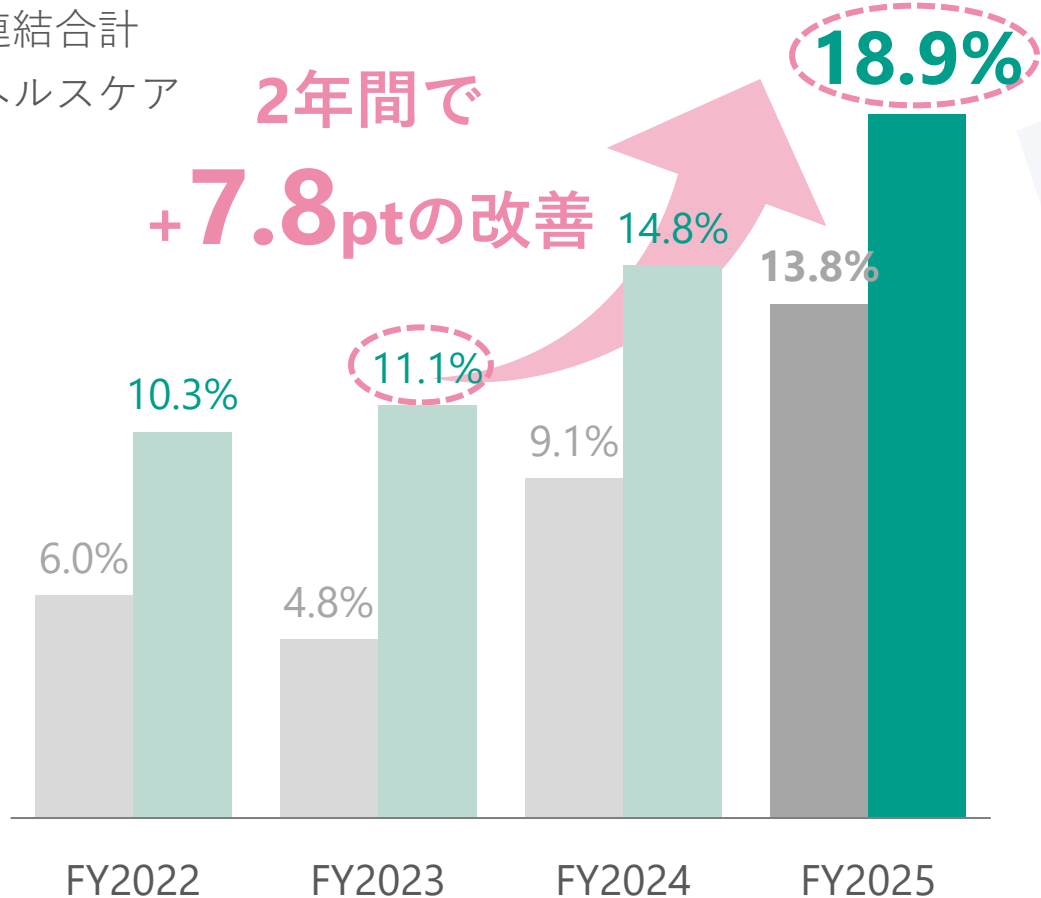


ヘルスケア - 収益構造の劇的改善

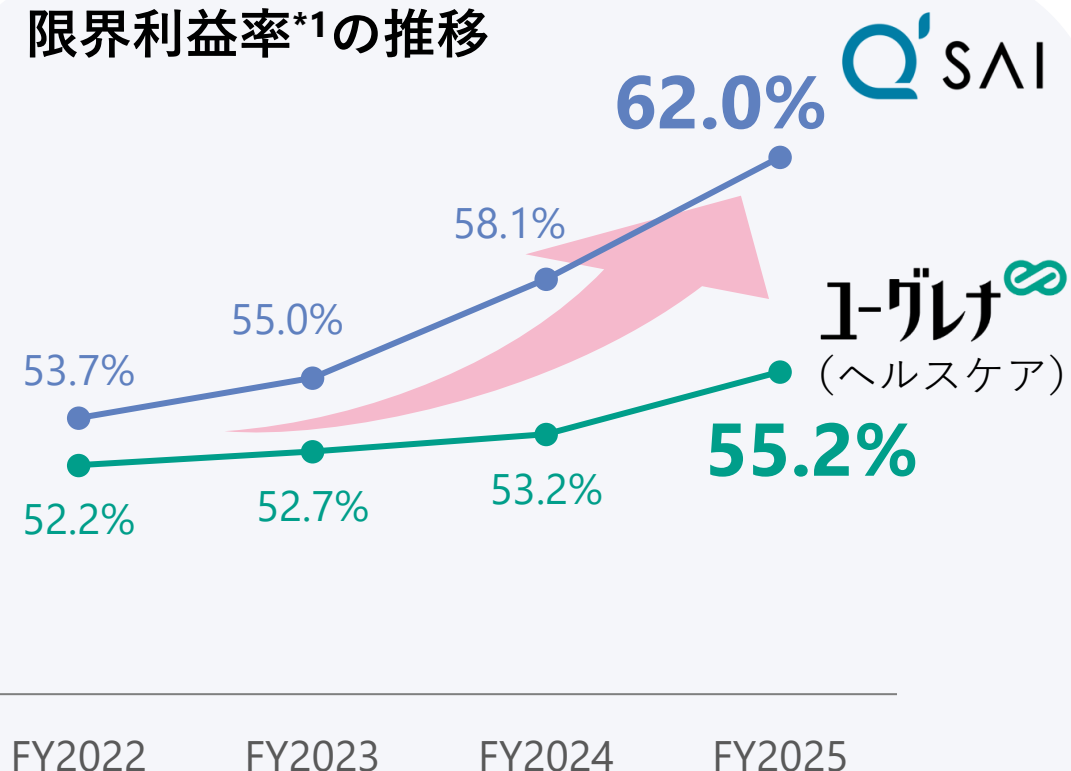
収益構造改革でヘルスケアの調整後EBITDAマージンが劇的に改善

調整後EBITDAマージン

- 連結合計
- ヘルスケア



限界利益率*1の推移

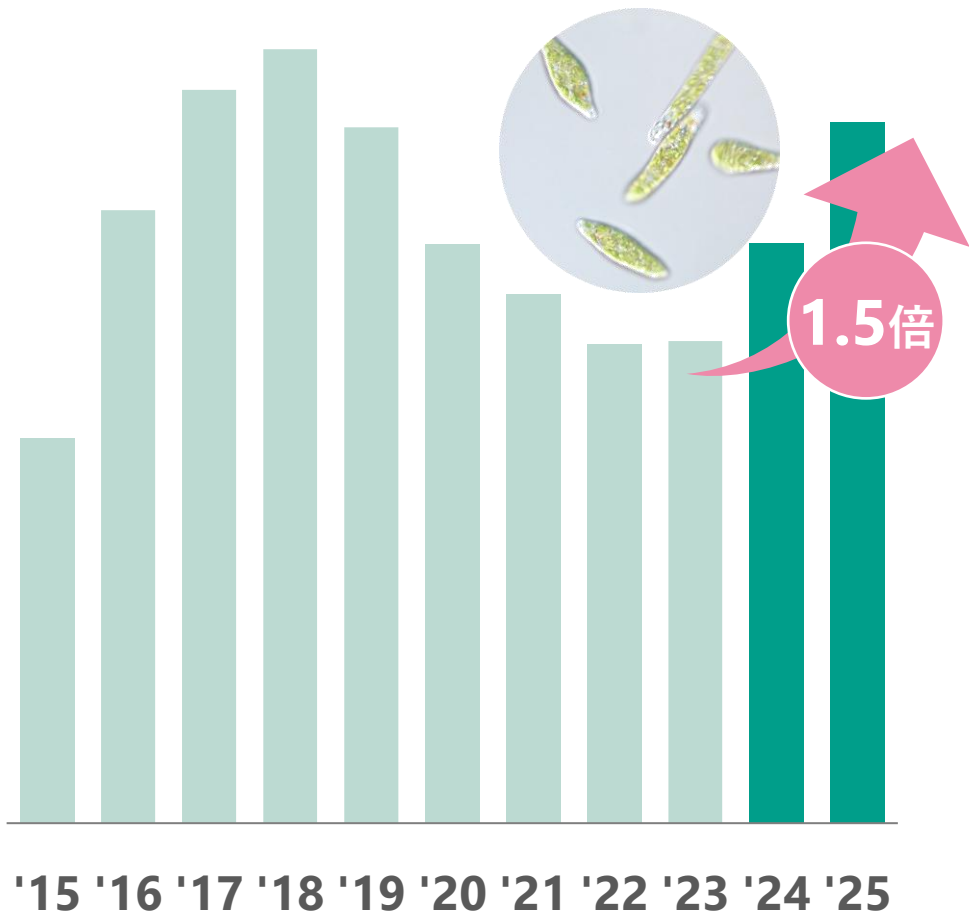


特にユーグレナヘルスケアとキューサイの限界利益率の改善が大きく寄与

ヘルスケア - ユーグレナ通販 (BtoC) の再成長

ユーグレナ商品の通販売上が2年で1.5倍、最盛期に迫る水準まで復活

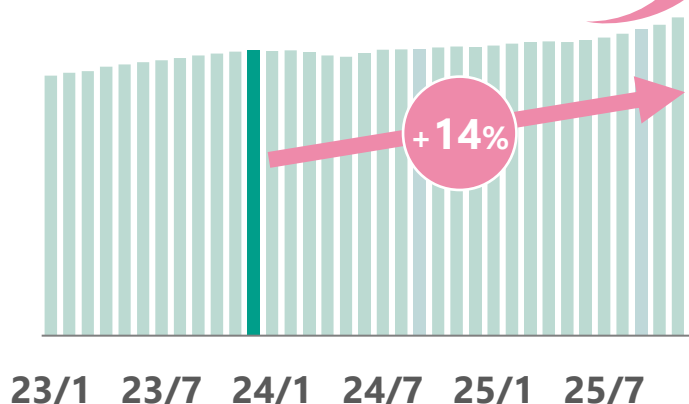
ユーグレナ商品通販売上*1 (単体)



*1: 9月期決算だった'20以前の数値は、暦年ベースで再集計した値

定期顧客数の推移

からだにユーグレナ (健康食品)

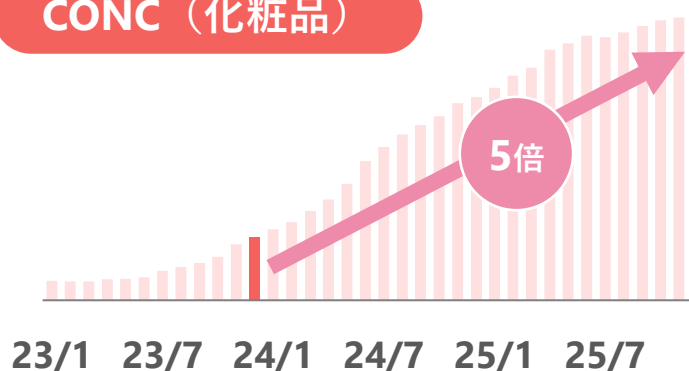


出汁商品
が好調



継続率の高い基幹ブランド

CONC (化粧品)



マイクロニードル
市場のパイオニア

ヘルスケア - 原料開発とOEM・原料販売 (BtoB)

微細藻類のBtoB展開や認知拡大を通じて、自社商品の想起・購買機会を創出

OEM・原料販売



アリナミン®ナイトリカバー
快眠ユーグレナ



MO ZYME (モザイム)



罪悪感のない
ラーメン



クーリッシュ
(LOTTE)



ペヤングやきそば
(まるか食品)



学校給食でのメニュー採用@石垣島



企業食堂での提供

- 「精製パラミロン」を開発、無味・無臭・無色で様々な食品への導入を図る



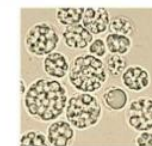
化粧品原料開発

- 化粧品原料「パラミロン原末 (ユーグレナ多糖体)」を開発、肌表面への微粒子付着を抑制する機能を確認
- 3種の微細藻類から「超長鎖セラミド」を発見、特許出願

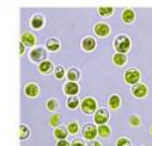
The Strategic FAB Company
SATICINE MEDICAL



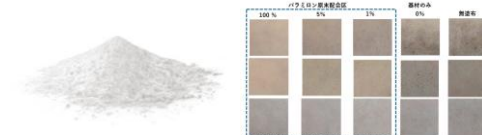
ユーグレナ



オーランチ
オキトリウム



クロレラ



ヘルスケア - 微細藻類メーカーとしての原料展開 (BtoB)

マルチ機能性素材としてのパラミロンの可能性を追求

「金のユーグレナ」の承継で「免疫機能の維持」機能性表示が追加、研究成果も大幅に拡充

パラミロンの機能性表示素材としてのポテンシャル



緑のユーグレナ



59種類の栄養素

金のユーグレナ



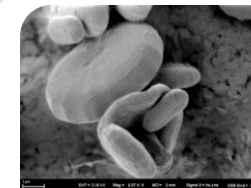
パラミロン高含有



希少成分パラミロン



撮影：青山学院大学
福岡伸一教授



両研究成果を融合し
マルチ機能性表示の
拡充を加速

ヘルスケア - 海外展開の進捗

ハラールを含む各種認証を活かしつつ、微細藻類粉末・製品のグローバル展開に向けて、輸出・OEM・海外展示会出展を推進

アジア最大規模の食品展示会に参加



クロレラパウダー製品のTV通販開始



韓国

2026年4月より販売

米国

世界最大級の健康関連見本市に参加、商談機会を獲得



中国

東南アジアで拡大する抹茶需要拡大を捉え、ユーグレナ抹茶商品も展開中 (フィリピン等)



シンガポール

ユーグレナグループ商品販売中



石垣島工場 (微細藻類培養)



出雲工場 (サプリメント等製造)

ヘルスケア - 疾患領域（慢性腎臓病）への挑戦

慢性腎臓病（CKD）は医療分野における重要課題の一つ
ユーグレナの独自成分パラミロンを活用した新たなアプローチを目指す

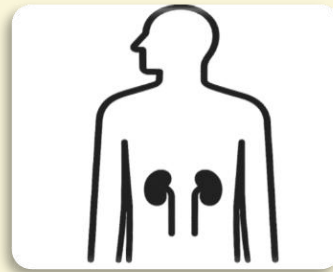
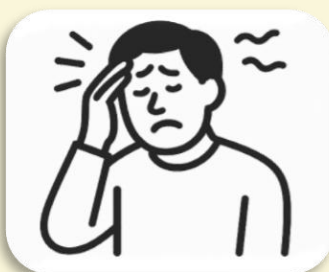
社会課題

- 日本のCKD患者は約**2,000万人**（成人**5人に1人**）*1、うち透析患者は約33万人*2
- 関連医療費は年**1.6兆円***3（医療費総額の**4%**）以上



求められる対応

- 腎疾患進行すると不可逆
- 進行抑制と食事負担の軽減が重要



当社の取り組み

パラミロンを活用した
メディカルフードの開発

過去の研究資産と
パートナーシップを活かし
実用化に挑戦

2030年代前半に
100億円超
規模を目指す

*1: CKD診療ガイドライン2024

*2: 日本透析医学会年次統計調査（2024年末時点）

*3: 厚生労働省 第139回社会保障審議会医療保険部会「参考資料2」（2021年、https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_15981.html）

キューサイ - 連結子会社化後の業績

連結子会社化後の5年間で収益はV字回復

コラリッチの成長と、EC・流通チャネル展開の拡大が牽引

主要ブランド

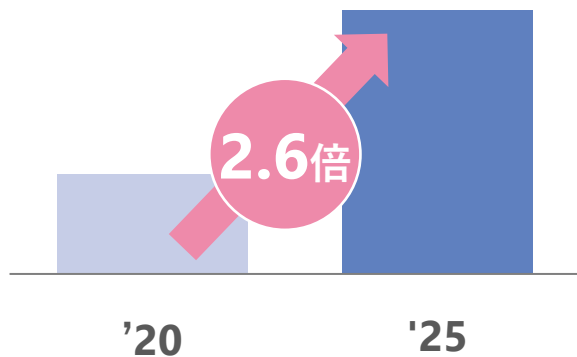


コラリッチ

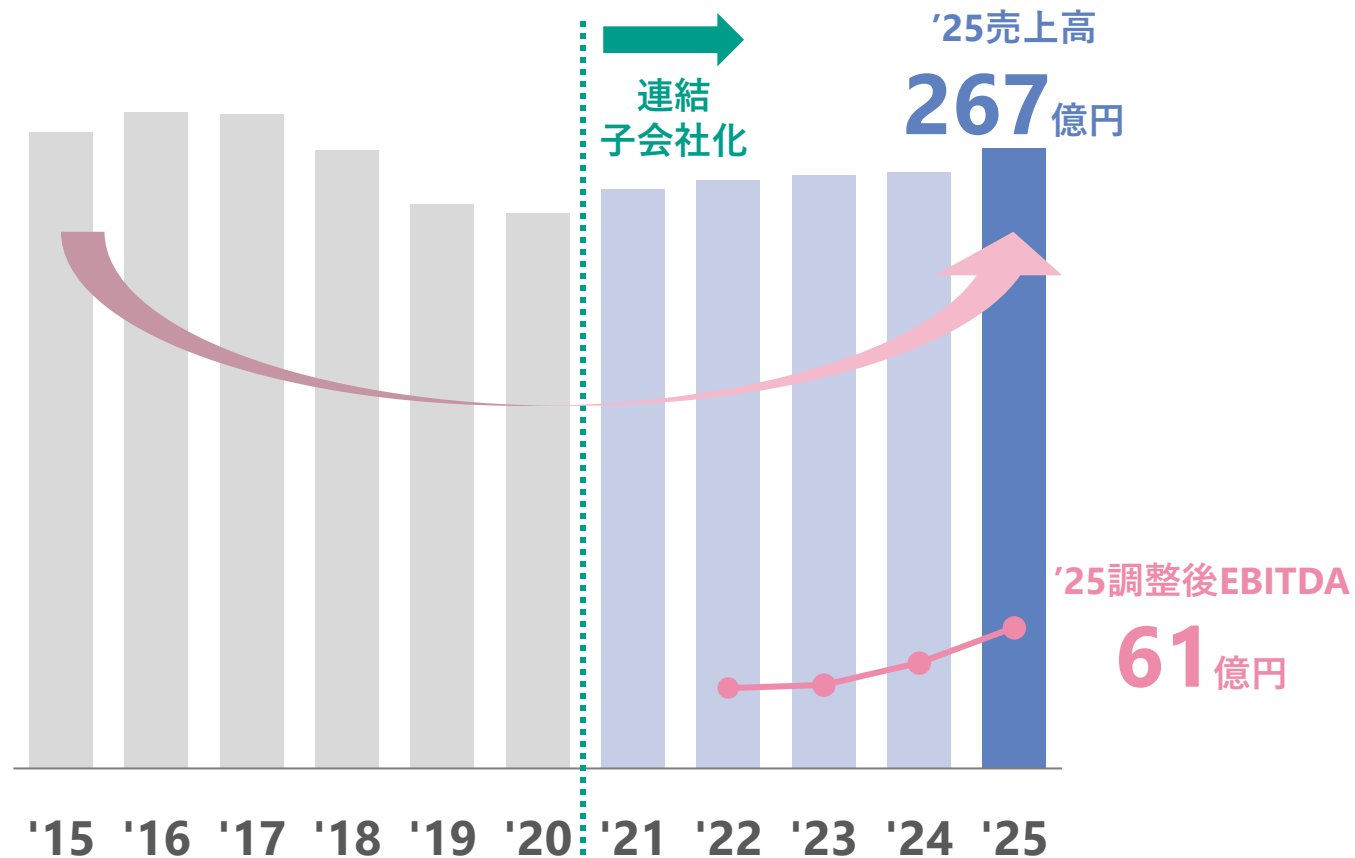


ひざサポート ザ・ケール
コラーゲン

EC・流通売上高



キューサイグループ収益推移*1

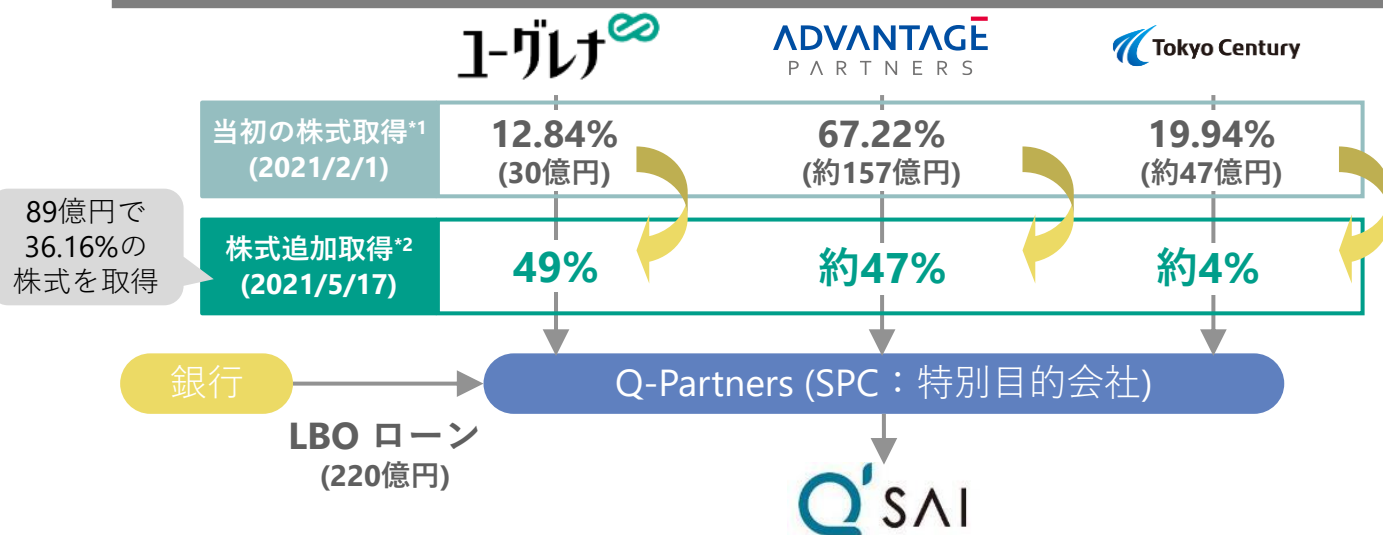


*1: 25年度末までに売却済みの旧子会社2社に係る収益を控除した値

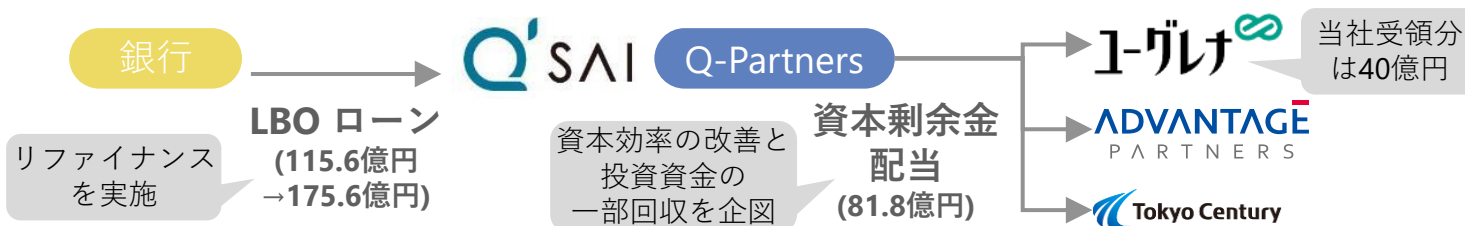
キューサイ - 連結子会社化ストラクチャーおよび資本政策

'21年に119億円で49%株式を取得し連結子会社化。M&A関連償却費は約18億円/年。'25年にリファイナンスと配当を実施し、40億円を投資回収

当社による連結子会社化までの株主構成の変遷 (2021年)



キューサイグループによるリファイナンス&配当 (2025年12月)



他株主の保有株式に関するメカニズム³

①: 当社によるコール・オプション

- 当社が、残りの51%株式を約256億円で取得できる権利

②: 第三者に対する売却

- 株主の一部又は全部が、連携して第三者に売却 (他株主は当社にドラッグアロング権を行使可能)

③: 他株主によるプット・オプション

- 他株主が当社に対して、残りの51%株式を約197億円⁴で売却できる権利

*3: 2025年12月の配当実施後の諸条件 (資本剰余金配当の実施により、各譲渡価格は減額調整)

*4: キューサイグループの各四半期毎の直近12か月の連結ベースでのEBITDAに応じて約101~197億円の間で変動 (2025年末時点では約197億円)

*1: コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社からQ-Partnersが100%持分を譲受
*2: 当社は2021/6/30付をみなし取得日として、キューサイグループを連結子会社化

バイオ燃料 - 商業プラントの建設



マレーシアPETRONAS社の敷地内に建設中



1-グレ



PETRONAS



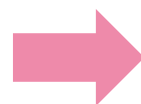
- 製造能力：
約**72.5万KL/年**相当*2
- スケジュール：
2028年下期迄の稼働開始予定
- 進捗状況：
2025年7月に持分15%が確定
(必要資金額も確保済)



鍬入れ式 (2025年11月)



建設現場 (2025年6月)



当社は約10万KL/年の
取り扱いを見込む

バイオ燃料 - 商業化後の収益ポテンシャル

当社の収益ポテンシャル*1

売上高（原料/製品トレーディング）

300億円/年規模

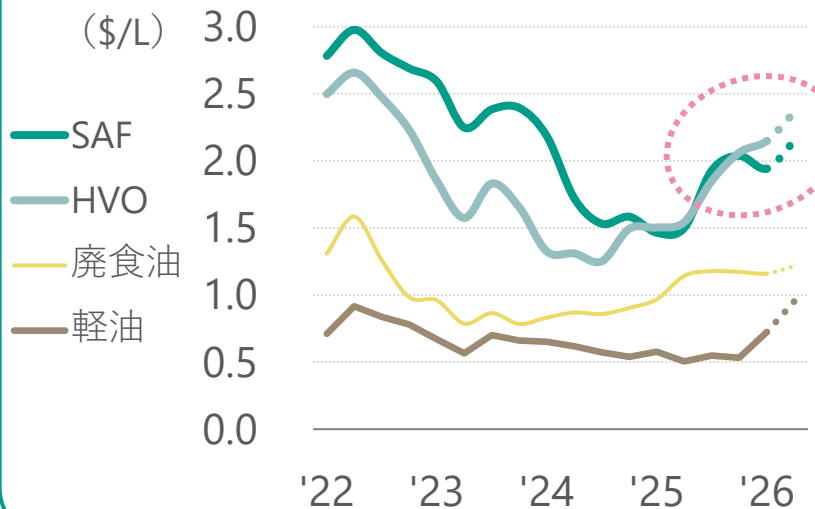
税引前利益（資金調達影響を除く）：

60億円/年以上 + トレーディング利益

15%出資 = 当社取扱量10万KL × 価格300円/L

国際競争力 → 収益性

価格推移（2025年、欧州）



2026年1Qは
US\$2.0-2.4/ℓ
(約314-377円/ℓ)*2
前後で推移

需給ギャップ拡大が
価格をサポート

- アジア最大級規模の製造能力
- SAFとHVOをフレキシブルに生産
- 原料供給ソースや主要な国際航路にアクセスしやすい**地理的優位性**



技術力、原料調達力を有するパートナー

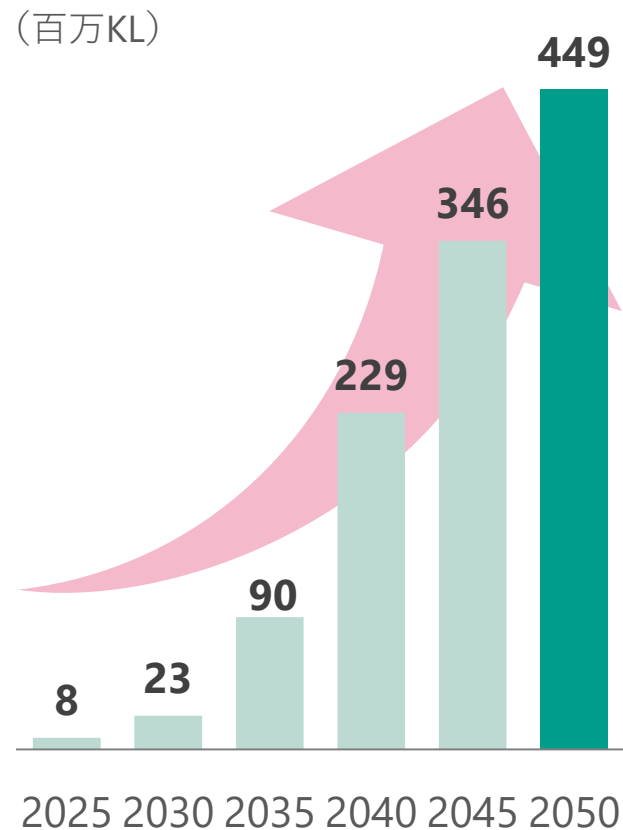
*1: バイオ燃料取扱量約10万KL/年相当、バイオ燃料価格@300円/L、本合弁会社の純利益率20%以上・配当性向100%（資金調達影響は加味せず）という前提条件のもと、例示を目的として作成した当社独自のシミュレーション値。当社又はプロジェクトの正式な予測値・目標値ではなく、今後の事業進捗や市場動向により変動

*2: Argus社データを基に当社で作成した参考値で、実際の価格は地域や取引条件によって異なる。比重は燃料0.8g/cm3・廃食油0.9g/cm3、\$1=150円で試算

バイオ燃料 - 脱炭素規制とエネルギー安保が需要を創出

バイオ燃料は脱炭素とエネルギー安保を同時に満たす現実的な選択肢

世界のSAF需要見通し*1と規制の追い風



欧州

- '25年に2%導入
- '30年に6%導入
- '35年に20%導入



日本

- '26年GX-ETS始動
- '30年に10%導入



エネルギー安全保障リスクの顕在化

ホルムズ海峡危機



ホルムズ海峡

マレーシアの
バイオ燃料商業プラント
バイオ燃料をアジアから
日本へ供給



1-グレ



マレーシア

2028年下期迄の稼働開始予定

バイオ燃料 - 国内におけるSAF/HVO供給事例

当社の供給実績は130件以上、電化が困難な液体燃料領域での需要が増加

SAF



商業用ジェット機



政府専用機



航空自衛隊戦闘機

HVO（次世代バイオディーゼル燃料）



運輸・物流（バス・トラック、鉄道）



建設重機



船舶・商船



ボイラー（工場）

バイオ燃料 - 継続利用の拡大

東急バスが路線バスで、大成建設が建設工事でHVOの継続利用を開始

路線バス

- 業態：公共交通
- 導入内容：
 - 既存路線バス65台でサステオ51を使用（2026年4月～）
- ポイント
 - 通常ダイヤの運行に組み込み
 - 実証ではなく実運用での導入



GREEN × EXPO 2027内建設工事

- 業態：建設
- 導入内容：
 - 大成建設が、2027年国際園芸博覧会内の建設工事で、建設機械向け燃料としてサステオ100&サステオ51を導入
- ポイント
 - サステオ100の継続利用



バイオ燃料 - 商業プラント建設の先 = 藻油開発

上場時の目標であったバイオ燃料事業の商業化に目途が立ち、
次の挑戦は「藻油」開発



実証プラント*1

バイオ燃料の実用化
国内導入事例を拡大



SAF初フライト



HVOの公道利用



バイオ燃料事業の商業化
マレーシアで商業プラント建設が進行、
2028年下期迄に稼働開始予定



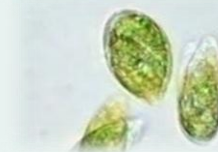
サプライチェーンも構築中

15%シェアで
売上高
300億円
税引前利益
60億円
を見込む



原料は
廃食油

脱脂藻体の
活用に向け、
肥料・飼料展開
も本格化



最後のピースは藻油

必要なのはスケールアップ
と多段活用



アグリ領域 - 微細藻類入り機能性肥料・飼料の展開

「いきものたちにユーグレナ」ブランドで商品を発売
水産・畜産・農業分野で「ユーグレナ育ち」認定製品が登場

機能性肥料・飼料の主な研究成果

肥料で土壌・植物を健康にする

微細藻類を土壌に加えることで、生育が良くなることを確認



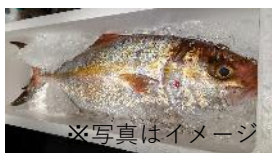
【定植17日後の様子】
水菜：生鮮重の増加を確認
ペチュニア：開花期間の延長を確認

飼料で家畜を健康にする

微細藻類入り飼料の給与で成長と免疫機能の向上を確認



ニワトリ
抗体産生が**1.2倍**（免疫機能）
体重が**1.2倍**（成長）



カンパチ
増重率が**7%増**（成長）
血液中リゾチーム活性*1が**1.3倍**

*1: リゾチームは細菌の細胞壁を分解する酵素（タンパク質）
*2: 南魚沼産「ユーグレナ育ち」の『びかまる』が世界最大級のお米コンクール「第27回「米・食味分析鑑定コンクール：国際大会」 in つくばみらい」で金賞受賞

「いきものたちにユーグレナ」商品発売



あすかアニマルヘルス株式会社

「ユーグレナ育ち」認定製品が
水産・畜産・農業分野で登場



「びかまる」が
まつえんどんから発売*2



「YESブリ」が
UTAKICHIから発売



「なごみたまご」が
宮本養鶏場から発売

バイオマスの5F - 生産量のスケールアップ

2030年までに生産量を3倍程度に拡大

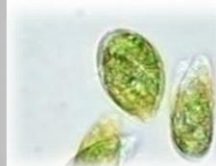
2030年代に微細藻類由来バイオ燃料と脱脂藻体活用による代替肥料・飼料の本格展開開始を目指す



微細藻類由来
バイオ燃料
(藻油)



代替肥料・飼料



微細藻類
生産量

機能性肥料・飼料

ファインケミカル (化粧品・高機能原料)

3倍

生産量拡大に伴い
生産コストも低減

食品

2025年

2030年~



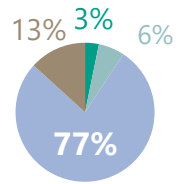
補足資料： ヘルスケア事業

ビジネスモデル - 3つのチャネル展開

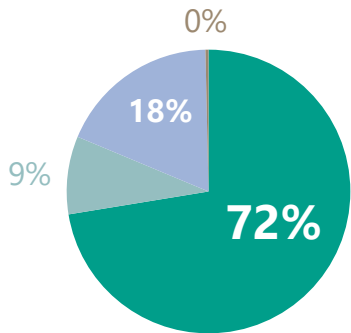
上場時、OEM中心だったビジネスモデルから直販中心のビジネスモデルへ転換

ヘルスケア売上内訳*1

2012年度：16億円



2025年度：470億円

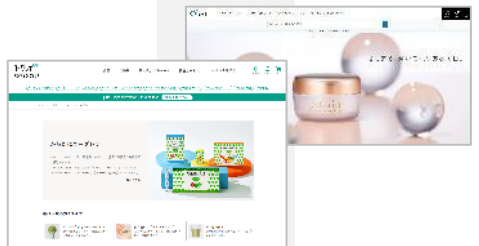


■ 直販 ■ 流通
■ OEM等 ■ その他

直販 (BtoC)

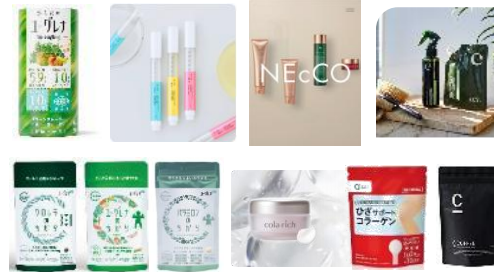


食品&化粧品



当社ECサイト
「ユーグレナ・オンラインショップ」
グループ会社ECサイト・通販

流通 (BtoBtoC)



食品&化粧品



全国のドラッグストア・
取扱店網 バラエティ
(美容院・ショップ等
専門店等)

OEM・原料供給 (BtoB)



サプリメント&
化粧品

微細藻類
粉末原料

製造の一部工程または
全工程を担う



粉末受託製造

OEM・ODM
顧客企業群

大手流通・
食品メーカー

コラボ商品等

消費者

BtoC - 直販の多様なブランド・ポートフォリオ

成長・成熟・収益源ブランドを組み合わせた分散型ポートフォリオにより、安定成長と収益性のバランスを実現

1-グレナ

Q'SAI

mej

食品

からだにユーグレナ



ひざサポート
コラーゲン



ザ・ケール



C COFFEE



化粧品

one



CONC



akyrise



コラリッチ



épauler

epo

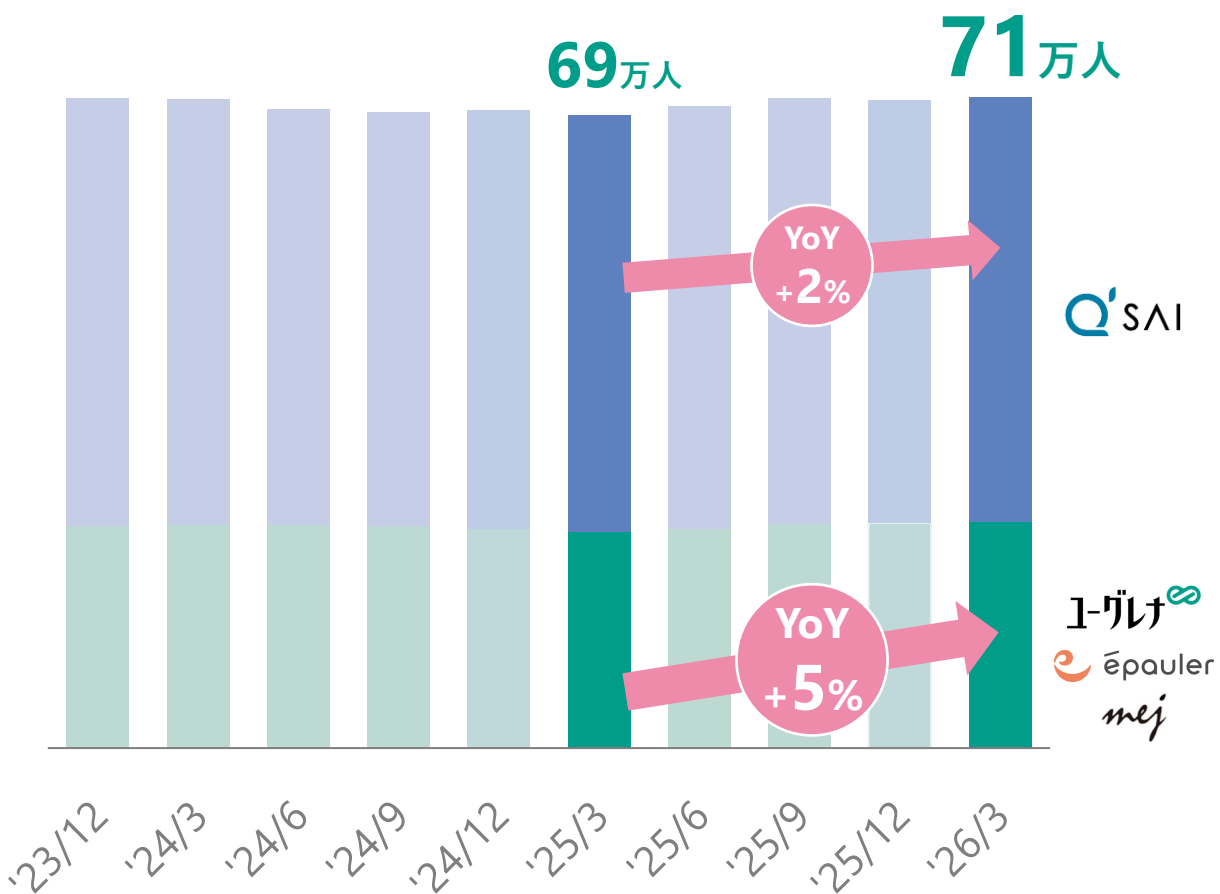


1-グレナ

BtoC - 直販定期顧客数

からだにユーグレナ、ひざサポートコラーゲン、ナイシーワが好調に推移

グループ直販定期顧客数推移



I-グレナ

からだにユーグレナ

Q'SAI

ひざサポートコラーゲン

épauler

ナイシーワ
(2025年11月発売)

海外展開 - 当社微細藻類のポテンシャル

拡大する機能性/スーパーフード市場において、微細藻類への注目度が上昇
当社独自素材としての競争優位性を活かして、米国・アジアでの市場開拓を加速

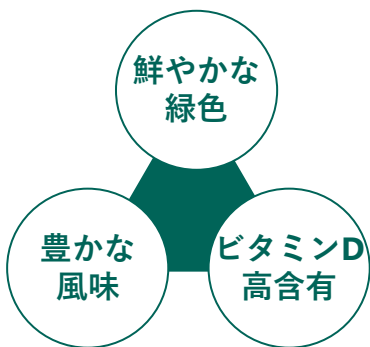
ヤエヤマクロレラ

他社クロレラや
スピルリナを代替し、
新規需要も開拓



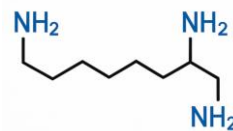
クロレラ粉末

競争優位性

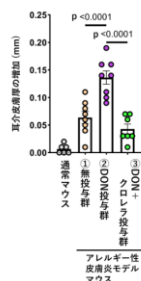


石垣島での
屋外プール培養

グルテンフリー
オートファジー
素材の可能性



スペルミジン
高含有



皮膚アレルギー
症状を軽減

マイコトキシン毒
の排出を促進*1

競争優位性



パラミロン

スーパー
フード

機能性の
横展開



マレーシア バングラデシュ

石垣島ユーグレナ

当社独自素材で
新たな市場を創出



ユーグレナ粉末

国際権威科学誌Natureに
ユーグレナ素材の広告掲載*2



*1: 麻布大学との共同研究 (<https://www.euglena.jp/news/20241101-2/>)

*2: Nature記事広告掲載先 (<https://www.nature.com/articles/d42473-025-00304-6>)

補足資料： バイオ燃料事業

ビジネスモデル - 商業化のイメージと今後のステップ

商業プラントへの15%出資%で、製造面の主要マイルストーンは達成済み。
約10万KL/年の取扱いに向けて、原料調達/生産面と販売面の体制構築に注力。



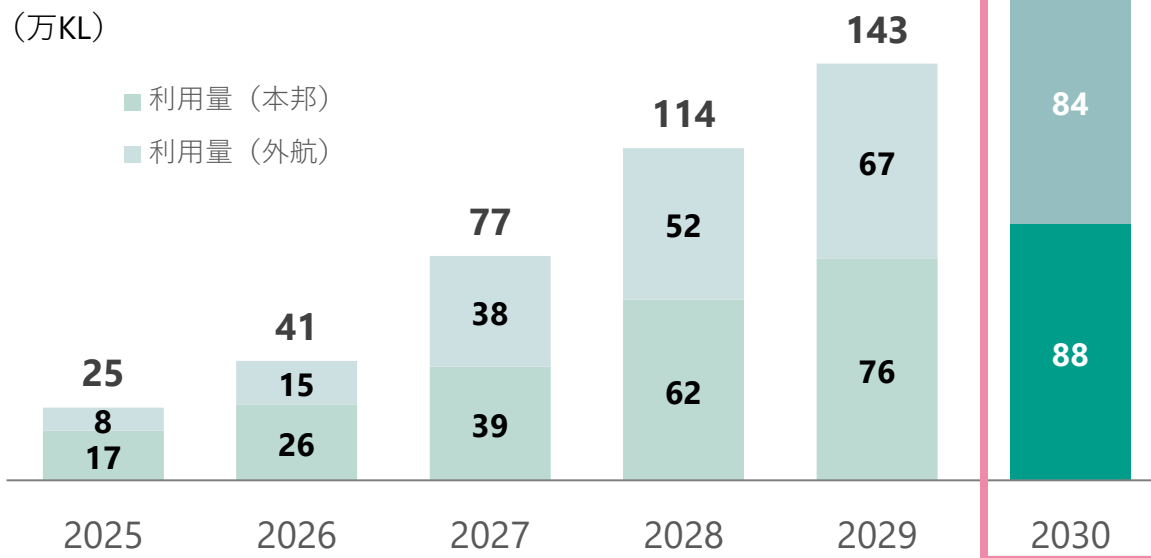
国内供給 - SAF需要への対応



172万KL/年の国内SAF需要に対応すべくパートナーシップを推進

日本のSAF需要見通し*1

- 経済産業省は、2030年に国内で生産・供給されたジェット燃料のCO₂排出量2019年比5%以上削減を石油元売り企業に義務付ける方針を提示
- 持続可能な航空燃料（SAF）の導入促進に向けた官民協議会が2022年に発足（当社も2025年2月より参画）



ユーグレナ社の取組

羽田空港におけるパートナーシップ



- SAF供給・販売の事業化に向けたサプライチェーン構築の共同検討
- グリーンボンド（10億円）の発行

➡ 最大5万KL/年のSAF供給体制の構築を目指す

当社の供給実績*2



商業用
ジェット機



成田空港
ハイドラント



政府専用機



航空自衛隊
戦闘機

*1: 経済産業省「第16回資源・燃料分科会 脱炭素燃料政策小委員会 配布資料」を参照

*2: 当社のバイオ燃料製造実証プラント（横浜市鶴見、2024年1月に稼働終了）での製造品

国内供給 - HVOサプライチェーンの構築

電化が困難な液体燃料領域における需要拡大を目指す

HVO需要拡大に向けて、法人・官公庁向け普及の取組も強化中

未混合HVO調達

ブレンド・商品開発

販売

改正省エネ法に対応、
特許も申請中

海外パートナー
ecoceres

HVO 100%



大型受入
タンク整備

軽油代替



サステオ51
高混合品の開発

A重油代替



バイオA重油の開発

運輸・物流

(バス・トラック、鉄道)



建設重機



船舶・商船



ボイラー (工場)



普及に向けた取組



ISUZU

MAZDA

現場の「欲しい」を届けます！
平野石油株式会社

ディーゼル車試乗会を共同開催



東急バス

現場の「欲しい」を届けます！
平野石油株式会社



清水建設

カメイ

思いをかたちに 未来へつなぐ
TAKENAKA

運輸・建設領域でのHVO導入が増加

助成金*1も活用しながら、
国内パートナーとの連携により
タンク・運送網を整備

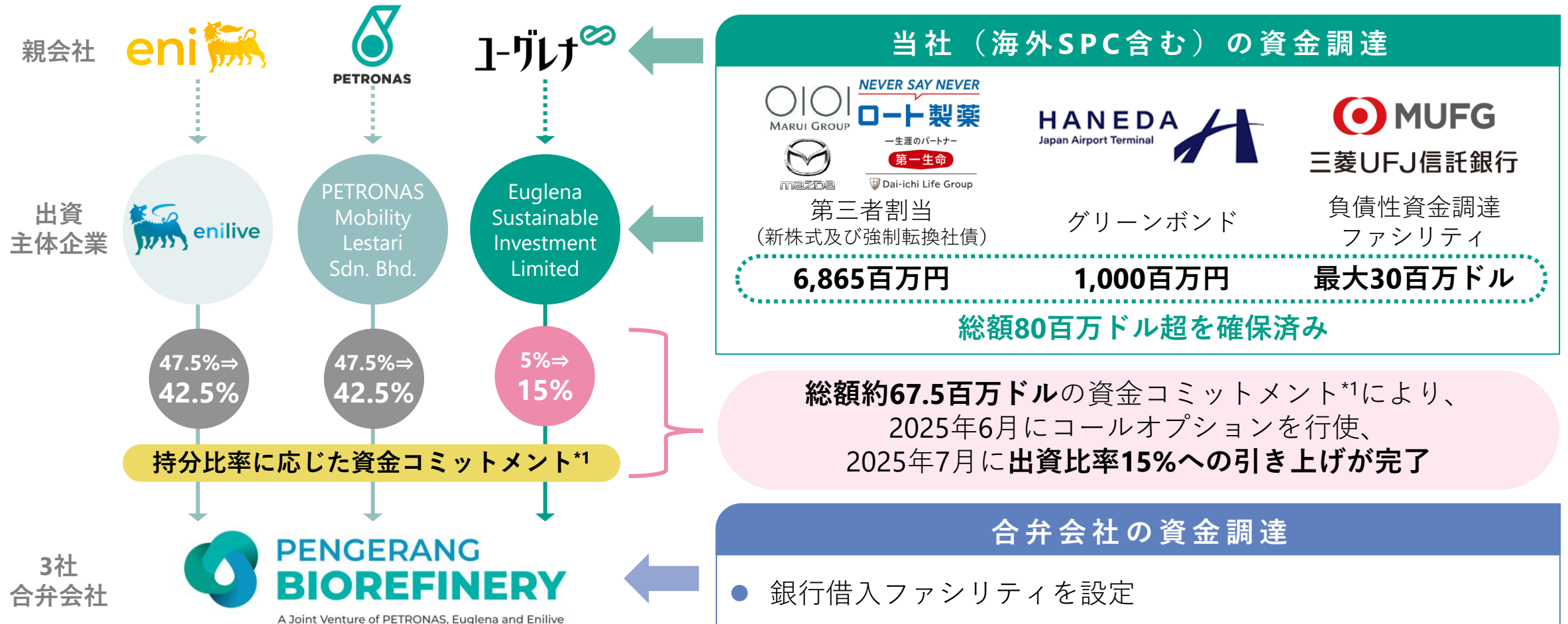
カメイ SINANEN 現場の「欲しい」を届けます！
平野石油株式会社

SANWA ENERGY
三和エナジー

MASUDA THE NEW
SOGO ENERGY
総合エナジー株式会社

商業プラント - 合併会社参画に向けた資金調達スキーム

総額約67.5百万ドルの資金コミットメント*1を拠出し、出資比率15%を確保



*1: 出資及びローンの提供（JVCoの資金需要に応じて段階的に実行）、並びに各株主による今後の資金拠出義務の履行を担保するための保証（当社は銀行保証）の提供

藻油開発 - 糖源開発の着手

マレーシアで低炭素バイオマス原料調査を実施

糖源の安定調達に向けて、日本・マレーシアにおける政府連携も強化

糖源調査

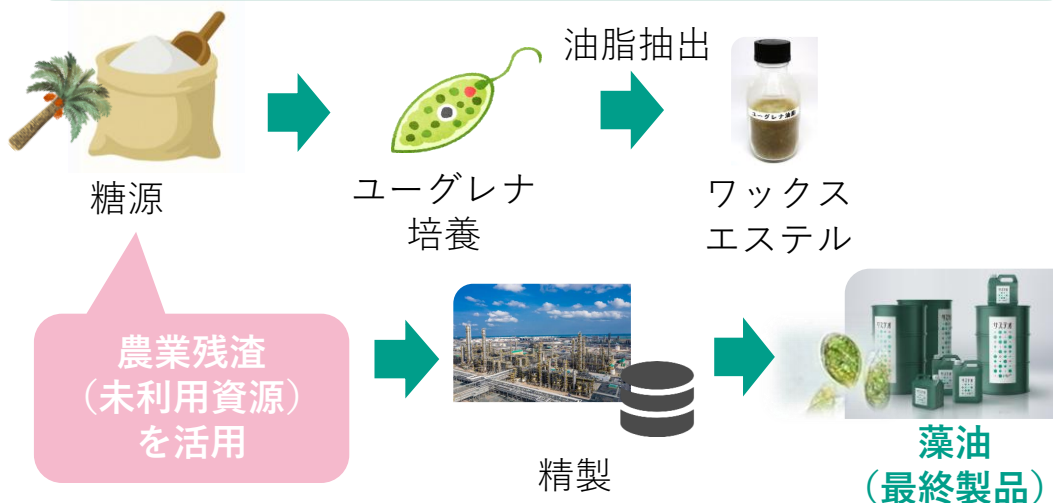
- マレーシア調査^{*1}でパーム残渣バイオマス活用の方向性を確認



藻類培養



低炭素原料から藻油ができるまで



糖源開発

課題

- 低炭素原料の安定確保
- 原料権益・アクセスの確保



機会

- PETRONAS社とのパートナーシップ
- 未利用の国産パーム系廃棄物の活用性



マレーシア政府関係者との関係性を構築するとともに、現地パーム系企業との連携を強化

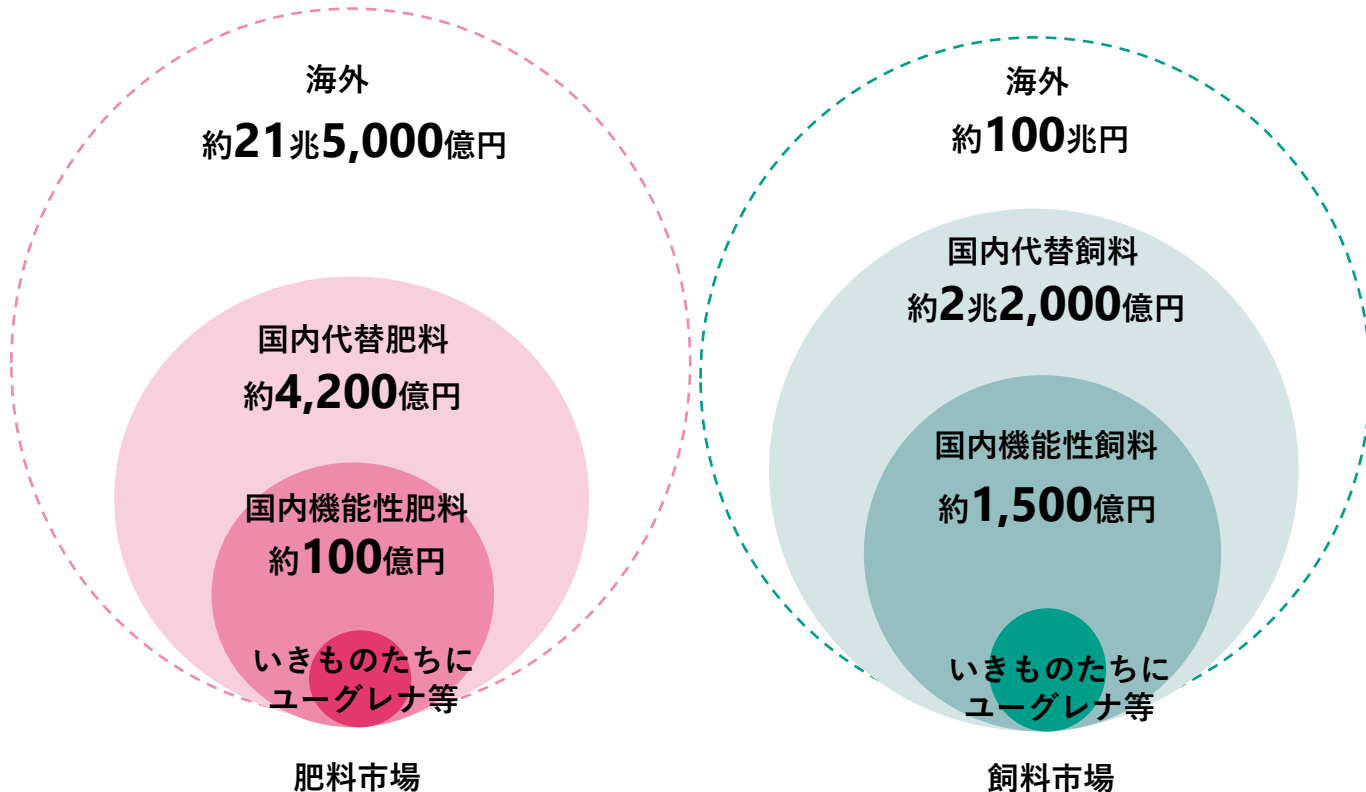


補足資料： その他事業

アグリ領域 - 市場規模と成長イメージ

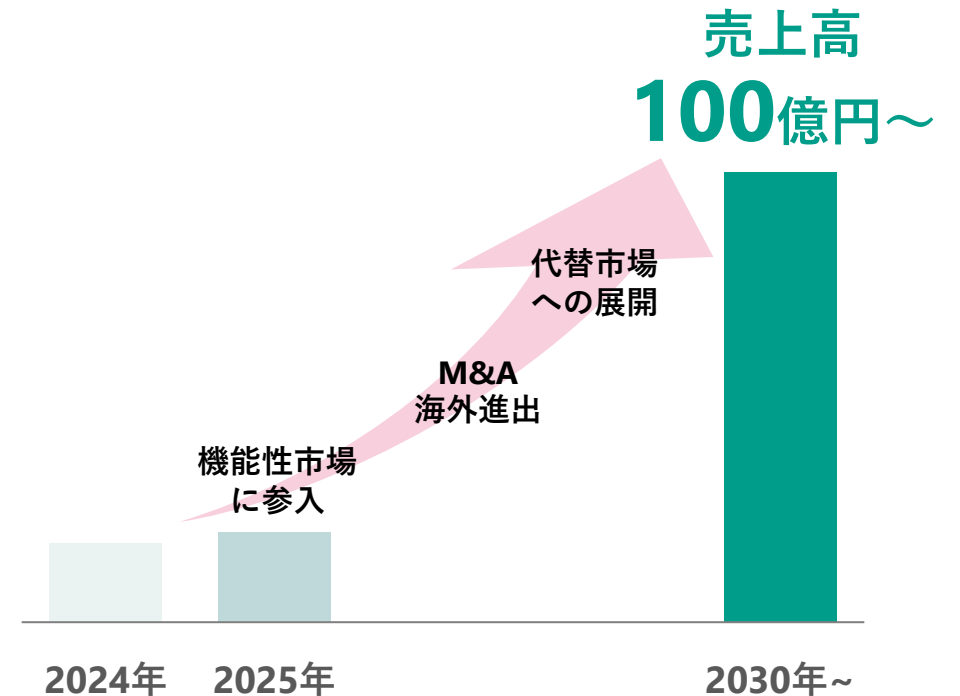
少量・高単価の機能性肥料・飼料市場から参入し、
中期的に代替市場への展開を目指す

市場規模のイメージ*1



中期的な成長イメージ

新商品の開発、M&A、海外進出、
他事業とのシナジーを軸に事業拡大を狙う



アグリ領域 - サプライチェーン構築

製造・販売はグループ会社とパートナーシップを活用

中長期的にはM&Aによる製販機能強化も検討

製造・販売



Copyright Euglena Co., Ltd. All rights reserved.

アグリ領域 - 2026年以降の研究・販売方針

研究の強化と販売基盤の拡大を進め、事業成長を加速化

パートナーシップを活用して、コンパニオンアニマル領域への参入も検討開始

研究

機能性研究

肥料

- バイオスティミュラント（暑熱ストレス等）



土壌環境改善

飼料

- 免疫・感染症対策の有効性等
- 水産飼料添加物



ブリ・マダイ、犬・猫等

代替肥料・飼料研究

肥料

- 脱脂藻体の活用



飼料

- 脱脂藻体の活用
- オーランチオキトリウム（魚油代替）



販売

- 全国エリアでの販売力強化
- 「ユーグレナ育ち」を通じた生産者支援機能の強化



大協肥糧株式会社



認知拡大の取組

サステナブルガストロノミーアワード「アグリ賞*1」受賞



コンパニオンアニマル

既存の研究・素材の活用
× パートナー連携

あすかアニマルヘルス株式会社



Bangladesh - ソーシャル活動

現地の子供たちの栄養改善を目指すGENKIプログラムが12年目 過去11年間の取り組みの集大成として、「インパクト評価レポート」を公表

クッキー配布数が
累計2,000万枚*1突破



10th
ANNIVERSARY

2,181万食

2,000万食突破
(2025年3月)



2014年4月開始



1,000万食突破
(2020年9月)

Bangladesh の子どもたちに栄養を。
 ユーグレナ GENKI プログラム



Bangladesh のより
 広範な人々に栄養を届
 けることを目指す

*1: 2025年3月末時点

補足資料： 微細藻類ユーグレナ

バイオマスの5F - ユーグレナの多段活用

ユーグレナは1個の素材から複数製品に展開可能

無駄なく活用することで、「バイオマスの5F」戦略の可能性を最大限に引き出す素材



培養技術

栄養豊富なユーグレナを低コストでお客様にお届けするために、
「屋外培養」×「タンク培養」＝「屋外タンク培養」を実現

屋外
プール
培養

豊富な栄養素

独立栄養培養



世界初の屋外大量培養
成功時の設備（2005年）

屋外
タンク
培養

生産性と栄養バランスの両立

光従属栄養培養



現在の食品用
屋外大規模培養設備



石垣島ユーグレナ
（食品用）

屋内
タンク
培養

培養効率が高い

従属栄養培養



パラミロン高含有
ユーグレナ

ゲノム編集技術

技術開発を経て、産業展開を見据えた実証化ステージが進行中

研究開発実績

技術開発

- 2024年までの研究で、CRISPR-Cas9/-Cas12aを用いた**高効率ゲノム編集技術**を確立
- 2025年に**国産ゲノム編集技術であるCRISPR-Cas3法**を用いたゲノム編集にも成功、テスト生産に向けて2026年1月にライセンスを契約*1

用途開発

バイオ燃料



浮遊不全ミドリムシ

白色化ユーグレナ

ヘルスケア



タンパク質高蓄積
ユーグレナ

ワックスエステル低蓄積
ユーグレナ

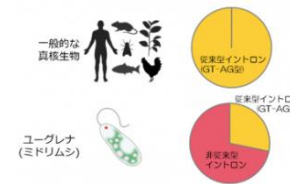
ゲノム編集ユーグレナの取り組み

- 農林水産省「フードテックビジネス実証事業*2」で**食品用途ゲノム編集ユーグレナの生産実証を実施**

本実証範囲



- **ゲノム編集の基礎研究成果が国際的科学誌*3に掲載**



PNAS

*1: C4U社との共同研究、「CRISPR-Cas3技術を利用したテスト生産に向け、C4U社とライセンス契約を締結」 (<https://www.euglena.jp/news/info/>)

*2: 支援対象となる取組は、フードテック等を活用した新たな商品・サービス等の取組 (foodtech-evolve.jp/r6hoseiproject)

*3: 理化学研究所他との共同研究、「ユーグレナにおけるイントロンの非従来型配列規則を解明」 (<https://www.euglena.jp/news/20250924-1/>)

補足資料： 業績データ

会社概要

1-グレン

いきる、たのしむ、サステナブル。

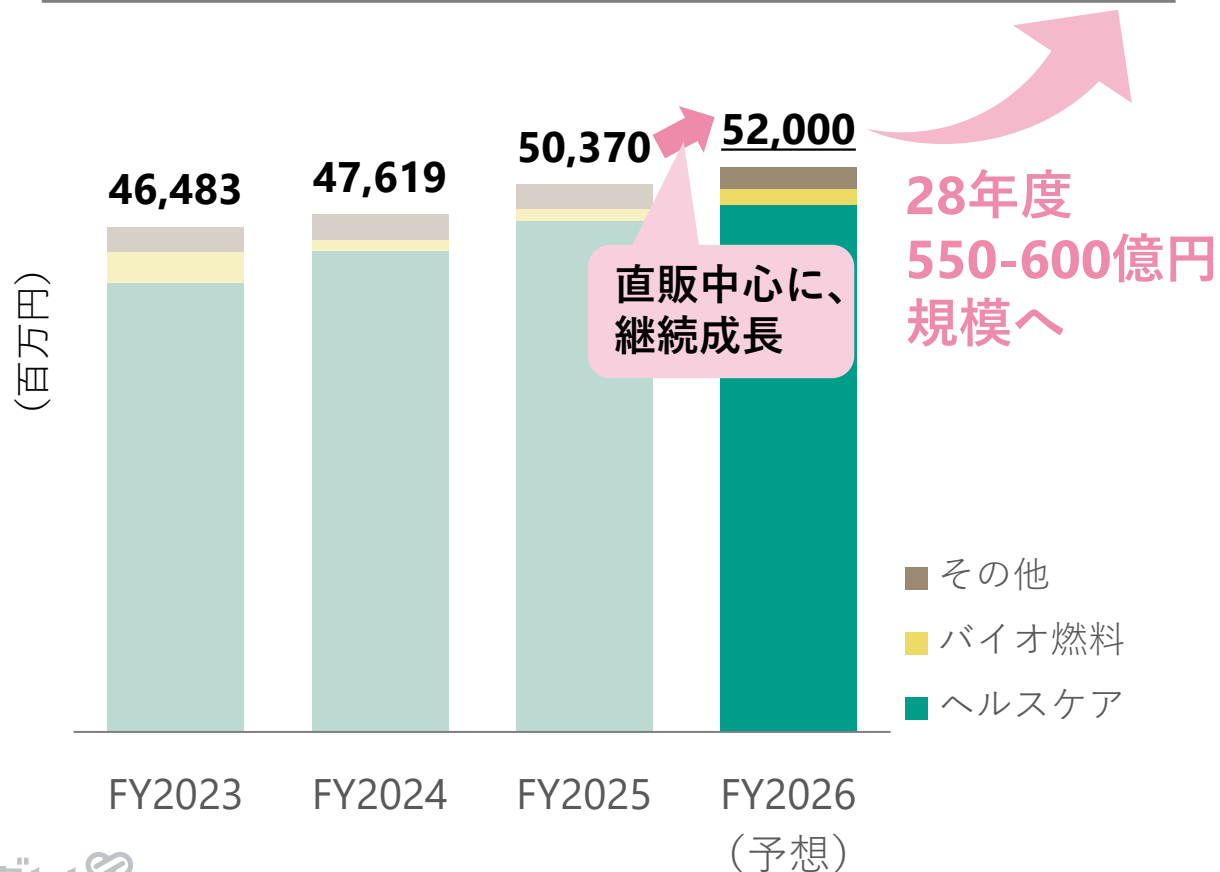
創業	2005年8月9日
本店	東京都港区芝5-29-11
資本金	173億7,338万円（2026年3月末時点）
従業員数*1	1,042名（連結）（2025年12月末時点）
グループ会社	連結子会社15社（うち、キューサイグループ4社、海外合弁会社1社）（2026年3月末時点）
フィロソフィー	Sustainability First（サステナビリティ・ファースト）
パーパス	人と地球を健康にする
上場市場	東京証券取引所プライム市場
証券コード	2931
株主数	112,085名（2025年12月末時点）

2026年度業績予想

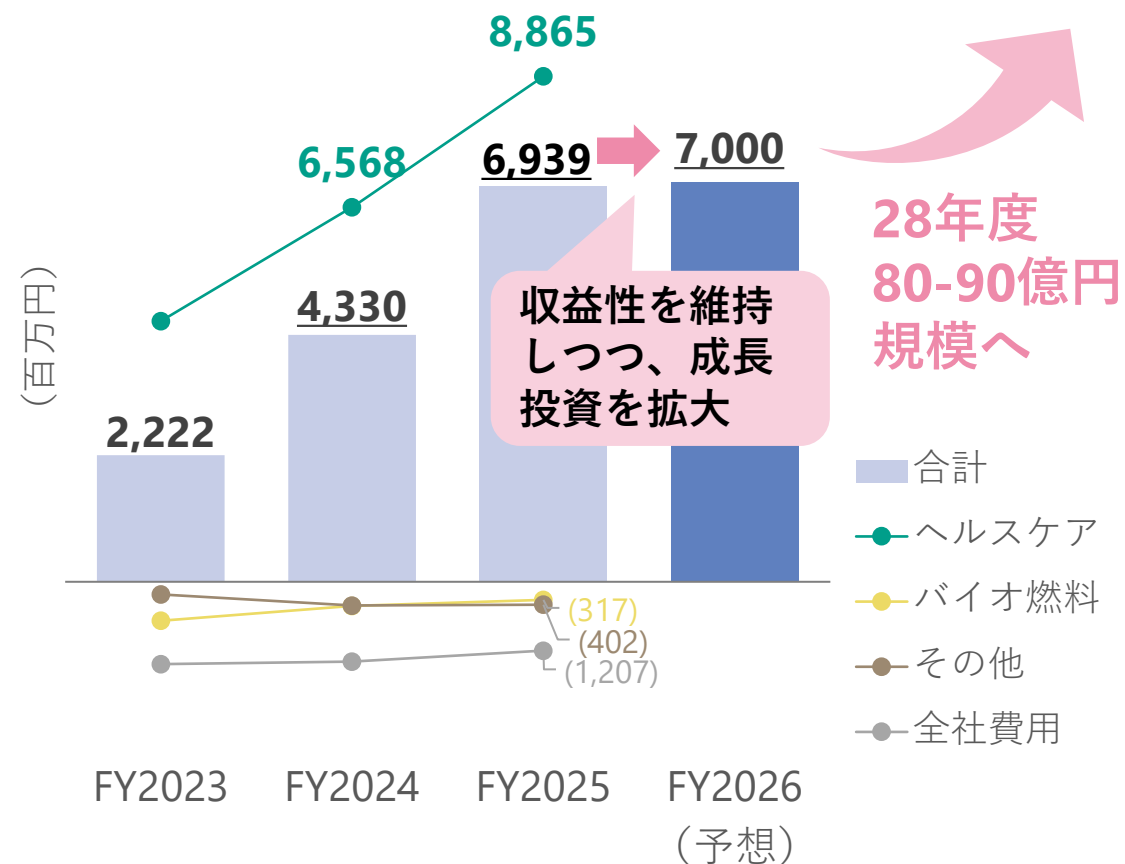
2026年度は黒字体質は維持しつつ成長投資に着手

収益基盤を拡充・新規創出することで、2027-2028年度に収益拡大を加速化

売上高



調整後EBITDA



連結損益計算書

(百万円)	2025/12期										2026/12期							
	連結合計					うちユーグレナ ^{*1}					うちキューサイ					連結合計		
	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	うちユーグレナ ^{*1}	うちキューサイ
売上高 (新区分ベース)	11,936	12,618	12,533	13,284	50,370	5,452	6,092	5,908	6,450	23,902	6,484	6,526	6,624	6,833	26,468	13,197	6,456	6,741
直販	8,277	8,427	8,459	8,887	34,050	2,518	2,641	2,719	2,944	10,822	5,759	5,786	5,740	5,943	23,228	8,708	2,746	5,962
流通	976	963	1,077	1,161	4,178	278	234	299	314	1,125	698	729	779	847	3,053	972	231	740
OEM・原料・海外	1,646	2,347	2,271	2,367	8,631	1,631	2,337	2,242	2,358	8,568	15	10	29	9	64	2,501	2,469	32
その他	1,036	881	726	869	3,511	1,025	879	649	835	3,388	11	2	77	34	124	1,016	1,010	6
売上原価	3,600	3,805	3,816	4,116	15,337	2,470	2,697	2,600	2,927	10,694	1,130	1,108	1,217	1,189	4,643	4,205	3,097	1,107
売上総利益	8,336	8,813	8,717	9,168	35,034	2,982	3,394	3,309	3,524	13,209	5,354	5,418	5,408	5,645	21,825	8,993	3,359	5,634
粗利率	70%	70%	70%	69%	70%	55%	56%	56%	55%	55%	83%	83%	82%	83%	82%	68%	52%	84%
(内 ヘルスケア事業)	74%	73%	72%	72%	73%	62%	60%	60%	60%	60%	83%	83%	82%	83%	82%	72%	57%	84%
販売費及び一般管理費	7,718	7,795	7,734	8,664	31,910	3,300	3,393	3,402	3,724	13,820	4,417	4,401	4,332	4,940	18,090	8,156	3,584	4,571
販売費	4,737	4,826	4,874	5,475	19,912	1,656	1,757	1,865	2,141	7,418	3,081	3,069	3,009	3,334	12,494	5,187	1,980	3,207
(内 広告宣伝費)	2,562	2,686	2,769	3,108	11,125	872	961	1,089	1,187	4,109	1,690	1,725	1,680	1,921	7,016	2,940	1,111	1,829
人件費	1,367	1,363	1,319	1,514	5,563	859	823	785	810	3,277	509	540	535	704	2,287	1,307	789	517
管理費	1,447	1,416	1,401	1,496	5,759	655	630	623	624	2,532	792	785	778	872	3,227	1,501	667	834
研究開発費	167	190	140	179	676	131	183	130	149	593	36	7	10	30	83	161	148	13
営業損益	618	1,018	982	504	3,123	-319	1	-93	-200	-612	937	1,017	1,076	705	3,735	837	-225	1,062
調整後EBITDA ^{*2}	1,546	1,962	1,950	1,481	6,939	82	419	349	203	1,053	1,464	1,542	1,601	1,278	5,885	1,822	223	1,599
営業外損益	-182	-282	-11	-283	-758	-80	-189	68	25	-176	-102	-93	-79	-308	-582	-55	77	-132
(内 助成金収入)	4	22	46	3	76	4	20	45	0	69	1	2	1	3	7	79	78	1
経常損益	436	736	972	221	2,366	-398	-188	-25	-176	-787	834	925	997	397	3,153	782	-148	930
特別損益	-261	-2	1	-214	-476	-261	-2	1	-214	-476	0	0	0	0	0	0	0	0
親会社株主に帰属する当期純損益	-507	-52	179	-425	-806	na	na	na	na	na	na	na	na	na	na	-32	na	na
【参考指標】																		
減価償却費 ^{*3}	589	593	594	639	2,415	206	214	213	212	845	382	380	381	427	1,570	597	205	392
(内 M&A関連)	439	438	434	428	1,739	127	126	123	117	493	312	312	312	312	1,246	428	117	312
のれん償却額	244	234	227	223	927	100	90	83	79	353	143	143	143	143	573	210	66	143

*1: 連結PLからキューサイ・グループPL (キューサイ・グループとその他グループ間の連結相殺反映後) を控除した金額で、グループ会社PLを含む

*2: 調整後EBITDAは当社独自の財務指標。計算式は、EBITDA(営業利益+のれん償却費及び減価償却費) + 助成金収入 + 株式関連報酬

*3: 調整後EBITDAの算出に使用した金額であり、連結キャッシュ・フロー計算書の数値とは異なる

セグメント別PL

事業セグメント別内訳							
(百万円)	2025/12期				合計	2026/12期	
	'25Q1	'25Q2	'25Q3	'25Q4		'26Q1	合計
連結合計							
売上高	11,936	12,618	12,533	13,284	50,370	13,197	13,197
増減率	-3%	6%	-1%	6%	6%	-1%	na
売上総利益	8,336	8,813	8,717	9,168	35,034	8,993	8,993
対売上高比率	70%	70%	70%	69%	70%	68%	68%
調整後EBITDA	1,546	1,962	1,950	1,481	6,939	1,822	1,822
対売上高比率	13%	16%	16%	11%	14%	14%	14%
ヘルスケア事業							
売上高	10,924	11,748	11,890	12,459	47,021	12,189	12,189
増減率	-4%	8%	1%	5%	6%	-2%	na
売上総利益	8,106	8,573	8,577	9,003	34,259	8,762	8,762
対売上高比率	74%	73%	72%	72%	73%	72%	72%
調整後EBITDA	2,033	2,379	2,404	2,048	8,865	2,301	2,301
対売上高比率	19%	20%	20%	16%	19%	19%	19%
バイオ燃料事業							
売上高	253	205	259	376	1,092	256	256
増減率	-21%	-19%	26%	45%	17%	-32%	na
売上総利益	58	43	44	71	215	43	43
対売上高比率	23%	21%	17%	19%	20%	17%	17%
調整後EBITDA	-52	-59	-57	-149	-317	-72	-72
その他事業							
売上高	763	669	390	476	2,299	757	757
増減率	26%	-12%	-42%	22%	-2%	59%	na
売上総利益	172	198	96	118	584	188	188
対売上高比率	23%	30%	25%	25%	25%	25%	25%
調整後EBITDA	-80	-86	-99	-138	-402	-65	-65
対売上高比率	-10%	-13%	-25%	-29%	-17%	-9%	-9%
全社							
売上高	-5	-4	-5	-28	-42	-5	-5
売上総利益	-0	-1	-1	-23	-25	-0	-0
調整後EBITDA	-356	-273	-299	-280	-1,207	-342	-342

ヘルスケア事業内訳							
(百万円)	2025/12期				合計	2026/12期	
	'25Q1	'25Q2	'25Q3	'25Q4		'26Q1	合計
ユーグレナ・ヘルスケア^{*1}							
売上高	2,061	2,225	2,296	2,414	8,996	2,165	2,165
売上総利益	1,527	1,636	1,663	1,734	6,560	1,557	1,557
対売上高比率	74%	74%	72%	72%	73%	72%	72%
調整後EBITDA	315	337	422	220	1,294	223	223
対売上高比率	15%	15%	18%	9%	14%	10%	10%
エボラ							
売上高	831	794	964	1,024	3,613	870	870
売上総利益	631	620	740	782	2,774	688	688
対売上高比率	76%	78%	77%	76%	77%	79%	79%
調整後EBITDA	91	25	59	178	353	51	51
対売上高比率	11%	3%	6%	17%	10%	6%	6%
MEJ							
売上高	206	223	209	253	891	242	242
売上総利益	170	182	171	203	726	192	192
対売上高比率	83%	81%	82%	80%	82%	79%	79%
調整後EBITDA	36	32	2	14	83	10	10
対売上高比率	17%	14%	1%	5%	9%	4%	4%
キューサイ・グループ^{*2}							
売上高	6,536	6,570	6,668	6,876	26,651	6,788	6,788
売上総利益	5,402	5,459	5,447	5,682	21,991	5,677	5,677
対売上高比率	83%	83%	82%	83%	83%	84%	84%
調整後EBITDA	1,511	1,584	1,640	1,316	6,051	1,642	1,642
対売上高比率	23%	24%	25%	19%	23%	24%	24%
サティス製薬・グループ^{*3}							
売上高	1,437	2,102	1,878	2,026	7,443	2,273	2,273
調整後EBITDA	91	404	283	330	1,109	409	409
対売上高比率	6%	19%	15%	16%	15%	18%	18%
事業内共通・相殺^{*4}							
売上高	-147	-167	-125	-133	-572	-149	-149
調整後EBITDA	-11	-2	-2	-10	-25	-34	-34

*1: ユーグレナ社のヘルスケア事業及びグループ会社の八重山殖産の合計

*2: Q-Partners、キューサイ、キューサイプロダクツ、キューサイファーム島根の合計。内部取引相殺を区分したため、前頁数値と相違あり

*3: サティス製薬、日本ビューテック、ナユタ（2025年10月以降は日本ビューテックに吸収合併）の3社

*4: ヘルスケア事業全体の共通費、各ヘルスケア事業内グループ間の連結相殺の合計

連結貸借対照表

キューサイG
リファイナンス

(百万円)	2024/12末	2025/3末	2025/6末	2025/9末	2025/12末	2026/3末
流動資産	30,865	30,094	29,398	30,258	33,438	32,222
現金及び預金	20,631	19,051	18,539	19,067	21,163	18,870
棚卸資産	3,661	4,150	4,301	4,341	4,179	4,356
その他	6,573	6,893	6,558	6,851	8,096	8,996
固定資産	42,391	41,467	39,692	39,455	38,894	38,437
有形固定資産	6,048	5,972	5,930	5,849	5,751	5,707
無形固定資産	33,565	32,911	32,258	31,668	30,964	30,379
（内 のれん）	12,231	11,988	11,754	11,528	11,107	10,924
（内 顧客関連資産）	19,976	19,555	19,136	18,720	18,310	17,901
投資その他の資産	2,778	2,585	1,505	1,937	2,180	2,350
総資産	73,256	71,561	69,090	69,713	72,332	70,659
負債	41,143	39,972	37,390	37,194	43,806	39,860
流動負債	12,812	11,940	11,970	12,161	13,978	27,541
（内 短期借入金）	4,145	3,874	3,695	3,803	3,938	19,275
固定負債	28,331	28,032	25,420	25,033	29,827	12,318
（内 長期借入金）	15,964	15,695	13,155	12,915	17,917	2,342
（内 繰延税金負債）	5,944	5,916	5,826	5,685	5,480	5,560
（内 社債）	5,800	5,800	5,800	5,800	5,800	3,800
純資産	32,113	31,589	31,700	32,519	28,527	30,799
株主資本	30,918	30,457	30,443	30,622	30,197	31,892
（内 資本金）	16,331	16,331	16,373	16,373	16,373	17,373
（内 資本剰余金）	16,882	16,882	16,925	16,925	16,925	14,071
（内 利益剰余金）	(2,261)	(2,722)	(2,820)	(2,641)	(3,066)	482
その他	1,195	1,132	1,257	1,896	(1,670)	(1,093)
負債・純資産合計	73,256	71,561	69,090	69,713	72,332	70,659

IRメルマガのご案内

IRメルマガではユーグレナのIR情報をタイムリーにお届けしています。
ぜひご登録ください！

ご登録はこちらから↓



【IR情報は下記HPご参照ください】

・IRウェブサイト

<https://www.euglena.jp/ir/>



【シェアードリサーチ社による当社レポート】

(日) <https://sharedresearch.jp/ja/companies/2931>

(英) <https://sharedresearch.jp/en/companies/2931>

【株式・IRに関するお問い合わせ】

<https://www.euglena.jp/contact/c03/>

